



ICTデバイス、ソフトウェア等を活用した遠隔医療の在り方をテーマとする  
オンライン国際カンファレンス運営支援業務  
報告書

有限責任監査法人トーマツ  
2021年3月

# 目次

No.	記載事項	ページ
1.	カンファレンスの実施概要	P.3
2.	インドネシア	P.14
3.	ベトナム	P.30
4.	フィリピン	P.45
5.	インド	P.69
6.	まとめ・今後の展望	P.88

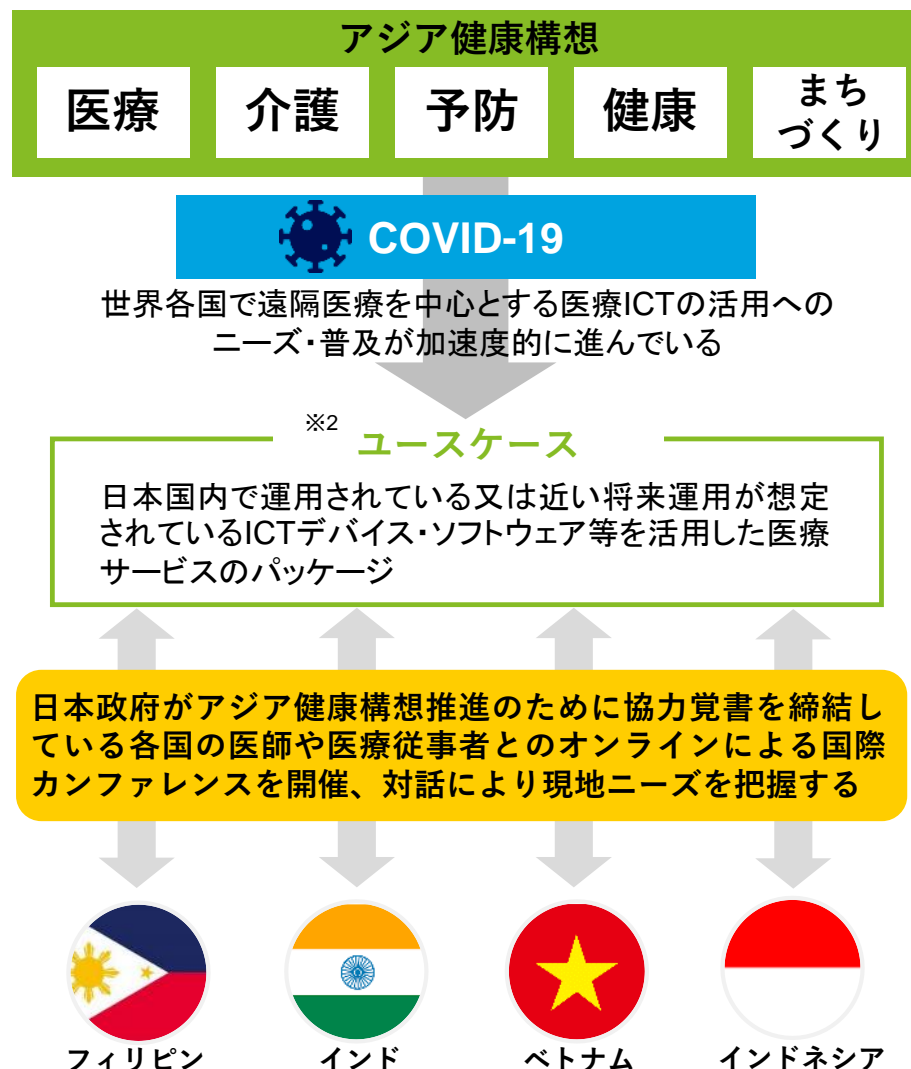
# 1. カンファレンスの実施概要

# 協力覚書を締結している4か国を対象に「フィリピン国に関する調査案件」<sup>※1</sup>で収集した「ユースケース」<sup>※2</sup>の発表を行う為に、オンライン国際カンファレンス実施しました。

※1 「海外展開を視野に入れた「ICTデバイスを活用したスマートヘルスケアシティ」のモデル策定等に関する調査」  
 該当調査案件に関する報告書は別途ご参照ください。

## 本業務の概要(1/2)

<p>名 称</p>	<p>「ICTデバイス、ソフトウェア等を活用した遠隔医療の在り方」をテーマとするオンライン国際カンファレンスの運営支援業務</p>
<p>背 景</p>	<p>✓ 内閣官房として「アジア健康構想」において、医療・介護・疾病予防、そして健康増進に資するヘルスケアサービス、QOLに着眼した健康的な生活を送る為の基盤整備と併せたまちづくりも含め、裾野を広げた保健医療施策を推進している。</p> <p>✓ アジア諸国と相互協力によって、日本の優れた医療・ヘルスケアサービスの海外展開の実現を目指している。</p>
<p>実施内容</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 現地カウンターパートの選定</li> <li>2. オンラインカンファレンスの企画と周知活動</li> <li>3. オンラインカンファレンスの開催</li> <li>4. 報告書作成</li> </ol>



# 本業務では、オンライン国際カンファレンスの実施に際し、大きく下記の4つの項目を実施しました。

## 本業務の概要(2/2)



### (1) 現地カウンターパートの選定

- 対象国における**主要国立大学医学部や国立大学病院等からカウンターパート候補を選定**、現地側出席者として調整する。(なお、対象国の**現地側参加者については10名程度参加**できるように調整)
- 現地側出席者や関係機関に対して**効果的に本カンファレンス開催の周知活動**を行う。

対象国	カウンターパート属性	周知先属性
フィリピン	✓ 主要な国立大学の医学部	✓ 対象国の病院等
インド	✓ 国立大学病院	✓ 日本政府機関の在外事務所/在外公館等
ベトナム	✓ プライベートセクターの病院 等	✓ 国際機関の現地駐日事務所 等
インドネシア		



### (2) オンラインカンファレンスの企画検討と周知活動

- カンファレンスのテーマは「**ICTデバイス、ソフトウェア等を用いた遠隔医療について**」とする。
- 各ユースケースの**サービス実施者(医師等)やサービス提供者(デバイス、ソフトウェア提供企業等)がサービスを紹介**する。
- カンファレンスは大きく**2部構成により企画を精緻化**する。(1回につき2~3時間程度のプログラム設計)

日本側属性(仮)	
✓ 企画委員	5名程度
✓ 発表者	3名程度
✓ 事務局	
✓ 国内ネットワーク	(例：九大、阪大、国循、大商)



### (3) オンラインカンファレンスの開催

- 日本側で最低20名程度が収容可能な都内の会議室を確保、オンラインカンファレンスを実施するための設営を行う。
- **日本側会議室からの参加者は10名程度として、会議のファシリテーターを1名配置する。また、医療用語に素養のある英語通訳を1名配置**する。
- 対象国および日本側のオンラインカンファレンスの**参加者リストは開催の10日前までに作成**する。
- 必要に応じて**現地カウンターパートとの接続事前テスト等、当日の円滑な開催に留意**する。



### (4) 報告書作成

- 各カンファレンスから得られた知見を基に報告書及び概要版を作成する。



1 報告書 (本編)

- ✓ 背景や対象国の関連情報を整理したうえでカンファレンス内容を取りまとめる。



2 報告書 (概要版)

- ✓ カンファレンス内容を端的に整理し、簡易的に内容把握ができる媒体として概要版を作成する。





# アジア4カ国とのオンライン国際カンファレンスは以下の日程で実施しました。

## カンファレンスの実施日程

日程	日本時間	現地時間	対象国	プログラム内容
2月17日(水)	15:00-17:00 (2時間プログラム)	13:00-15:00 時差：-2時間	インドネシア 	✓ 簡易版 ✓ 2時間
3月4日(木)	15:00-17:00 (2時間プログラム)	13:00-15:00 時差：-2時間	ベトナム 	✓ 簡易版 ✓ 2時間
3月10日(水)	14:00-17:00 (3時間プログラム)	13:00-16:00 時差：-1時間	フィリピン 	✓ ディスカッション形式 ✓ 3時間
3月17日(水)	13:30-16:00 (2時間半プログラム)	10:00-12:30 時差：-3時間30分	インド 	✓ ディスカッション形式 ✓ 2.5時間

展開するサービスに関して海外展開が期待されるユースケースを対象にカンファレンスの登壇者を選定しました。カンファレンスにて登壇した企業は以下の通りです。

### 登壇者一覧

対象国	登壇企業
インドネシア 	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 国際医療福祉大学三田病院</li> <li>✓ 株式会社アルム</li> <li>✓ メロディ・インターナショナル株式会社</li> <li>✓ OUI Inc.</li> </ul>
ベトナム 	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 国際医療福祉大学三田病院</li> <li>✓ 株式会社アルム</li> <li>✓ Ubie株式会社</li> <li>✓ OUI Inc.</li> </ul>
フィリピン 	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 国際医療福祉大学三田病院</li> <li>✓ Ubie株式会社</li> <li>✓ オムロンヘルスケア株式会社</li> <li>✓ メロディ・インターナショナル株式会社</li> <li>✓ OUI Inc.</li> </ul>
インド 	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 株式会社アルム</li> <li>✓ Ubie株式会社</li> <li>✓ メロディ・インターナショナル株式会社</li> <li>✓ OUI Inc.</li> </ul>

# 登壇企業が紹介したユースケースの概要は以下の通りです。

## 発表したユースケース一覧(1/2)

ユースケース リスト番号	名称	概要	登壇者
No.3	重症心臓病患者の在宅ケア 管理支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 専門医の数が少ない肺高血圧症等の心臓血管難病患者が、携帯型生体モニターを用いて自らバイタルや心電図を取得する。取得データは日々の体調等とともにスマートフォンを経由してアプリへ送信する。難病専門医はデータをオンラインシステムで閲覧し、患者へ適宜フィードバックする。</li> </ul>	国際医療福祉 大学三田病院
No.4	AIによる不整脈診断支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ ホルター心電計やパッチ型心電計を用いた長時間心電図検査によって不整脈疑い患者の日常生活における心電図データを取得し、クラウドまたはオンプレで動作するAIが極めて高精度に不整脈の検出を行うと共に、その検出根拠を分かりやすく提示する。本診断支援ツールにより非専門医であっても素早く不整脈の診断を行うことができる。</li> </ul>	
No.13	AI遠隔モニタリングを用いた 軽症新型コロナウイルス感染 症ケア	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 新型コロナウイルスの軽症者療養施設において、医師がクラウドとAIを用いて1,000名以上の軽症者をリアルタイムに遠隔モニタリングできるシステムである。</li> <li>✓ バイタル情報だけでなく、ホルター心電図機能を用いた長時間心電図検査により軽症患者の日常生活における心電図データを取得する。クラウドで動作するAIが極めて高精度に、酸素化の悪化に加え交感神経活性の評価や不整脈の検出を行うことで急変にリスクを提示すると共に、その検出根拠を分かりやすく医師に提示する。これにより一般医であっても適切な診断を行うことができる。</li> </ul>	
No.11	COVID-19における病院の 受入状況共有	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 同一のシステムを通して行政と医療機関とでCOVID-19患者受け入れ要否の情報を共有し、スムーズな意思決定を可能とする。</li> <li>✓ このシステムを利用し、県(入院調整本部)と入院協力医療機関との間で、ベッドの空き状況・入院対応可能人数の情報共有、及び県から各病院への情報提供を行うことができる。</li> </ul>	株式会社アルム
No.12	COVID-19患者の継続的な 病状管理及び情報の蓄積	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 自宅療養中のCOVID-19患者に対し遠隔で診療・経過観察・看視を可能とする体制を構築し、感染リスクの抑制及び医療崩壊の防止を図るシステムである。</li> </ul>	
No.18	医療ICTシステムによる地域 医療連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 行政と医療機関とで同一のシステムを通じてCOVID-19患者受け入れ要否の情報を共有し、スムーズな意思決定を可能とする。</li> <li>✓ このシステムを利用し、県(入院調整本部)と入院協力医療機関間で、ベッドの空き状況・入院対応可能人数の情報共有及び、県から各病院への情報提供を行う。</li> </ul>	



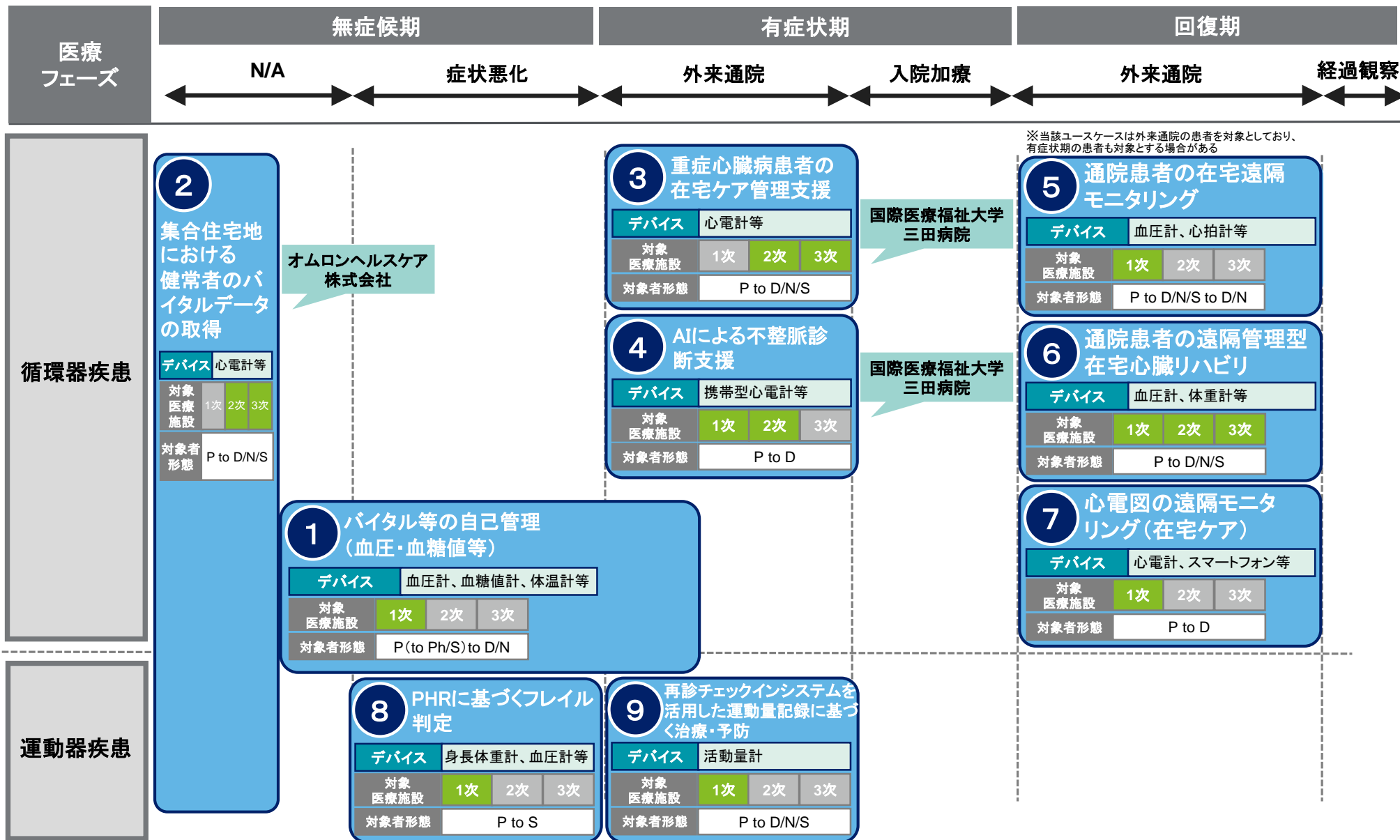
# 登壇企業が紹介したユースケースの概要は以下の通りです。

## 発表したユースケース一覧(2/2)

ユースケース リスト番号	名称	概要	登壇者
No.2	集合住宅地における健常者のバイタルデータの取得	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ マンションの契約事項に含まれる住人のバイタルデータの取得・モニタリングのサービスである。</li> <li>✓ 入居者のバイタルデータを取得しモニタリングすることをマンションの契約事項に含め、入居者にICTデバイスを配布する。ICTにより取得したデータはBluetoothを経由してスマートフォンなどのデバイスに蓄積されクラウドサーバへ送信、医療機関はデータを取得してモニタリングおよび解析を行う。</li> <li>✓ 血圧、血糖値に関係した循環器系、糖尿病系の疾患、感染症、肺炎などの疾患を対象とし、解析結果や健康へのアドバイスが医療機関から入居者へ提供される。</li> </ul>	オムロンヘルスケア株式会社
No.16	AIを活用した病院及び自宅での外来事前問診	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 病院に設置されたタブレットを介して外来患者の事前問診をAIで実施する。患者の回答内容(主訴・症状)に沿って質問が自動で作成され、入力情報は医師の専門表現に自動変換し電子カルテへ転送される。</li> <li>✓ COVID-19の対応としてスマートフォンやPCを用いた自宅での事前問診・クイックトリアージにも対応している。</li> </ul>	Ubie株式会社
No.19	妊婦の総合遠隔サポート	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 妊婦が自宅でウェアラブルの血圧計や胎児モニターを用いて血圧や胎児心拍などのデータを測定し、Bluetoothでスマートフォンなどに送信することでクラウドサーバを経由して医療機関に共有する。</li> <li>✓ 医師は送信されたデータを基に遠隔から診察を行う妊娠総合サポートのサービスを提供する。リアルタイムのデータ送信によって周産期患者の遠隔モニタリングも可能となる。</li> </ul>	メロディ・ インターナショナル 株式会社
No.20	Smart Eye Cameraとスマートフォンを用いた眼科疾患の遠隔診断	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 眼疾患に係る遠隔診断システムであり、失明に繋がりうる緑内障、網膜色素変性症、糖尿病網膜症、加齢黄斑変性症、近視性網脈絡膜萎縮の早期診断と定期フォローに最も適している。</li> <li>✓ 近隣の診療所や地域病院等のクリニックレベルの病院の医師が特殊な診断アタッチメントを付けたスマートフォンや眼底カメラといったデバイスを用いて患者の患部を撮影し眼科専門医へと画像を転送することで、遠隔診断を行う。</li> <li>✓ 従来現場での撮影技術が課題であったが、診断医が欲しい情報を的確に検査することによってオンラインで多くの疾患が診断可能となる。</li> </ul>	OUI Inc.

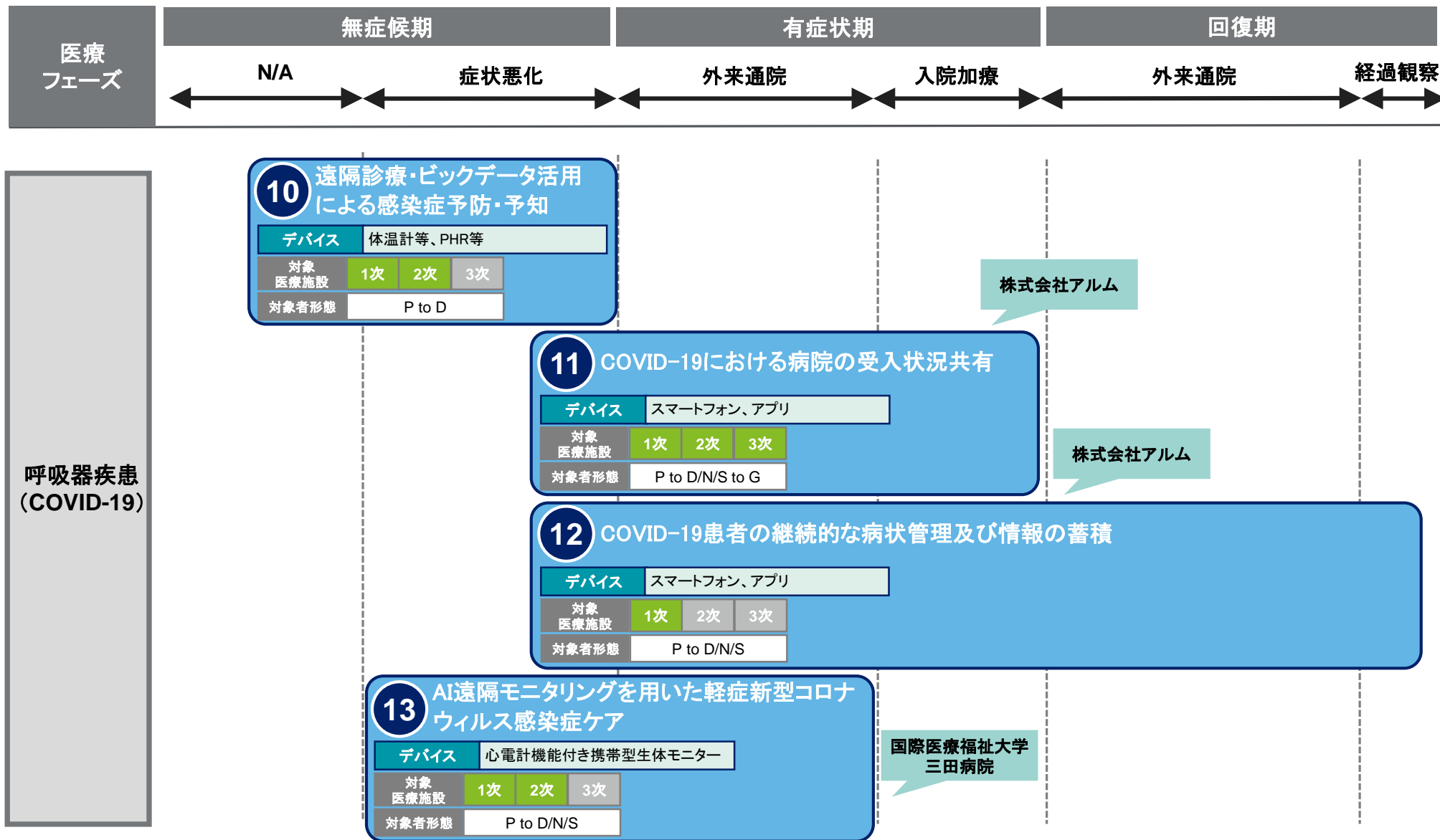
# 参考: ユースケースのマッピング(1/4)

## 循環器疾患・運動器疾患に対応するユースケース一覧



# 参考: ユースケースのマッピング(2/4)

## 呼吸器疾患に対応するユースケース一覧



株式会社アルム

株式会社アルム

国際医療福祉大学  
三田病院

# 参考: ユースケースのマッピング(3/4)

## その他の疾患に対応するユースケース一覧



遠隔医療  
コミュニケーション

**14** 遠隔の健康管理・セルフケアサポート

デバイス: 体重計、スマートフォン等

対象医療施設: 1次 2次 3次

対象者形態: P to D/N/S

**15** 離島・僻地におけるモバイルアプリを利用した遠隔診療システム

デバイス: スマートフォン、アプリ

対象医療施設: 1次 2次 3次

対象者形態: P to N/S to D/N/S\*2

**16** AIを活用した病院及び自宅での外来事前問診

デバイス: スマートフォン、アプリ

対象医療施設: 1次 2次 3次

対象者形態: P to N/S to D/N/S\*2

Ubie株式会社

**17** PHRモバイルアプリを活用した透析履歴の情報管理

デバイス: スマートフォン、アプリ

対象医療施設: 1次 2次 3次

対象者形態: P to D

株式会社アルム

**18** 医療ICTシステムによる地域医療連携

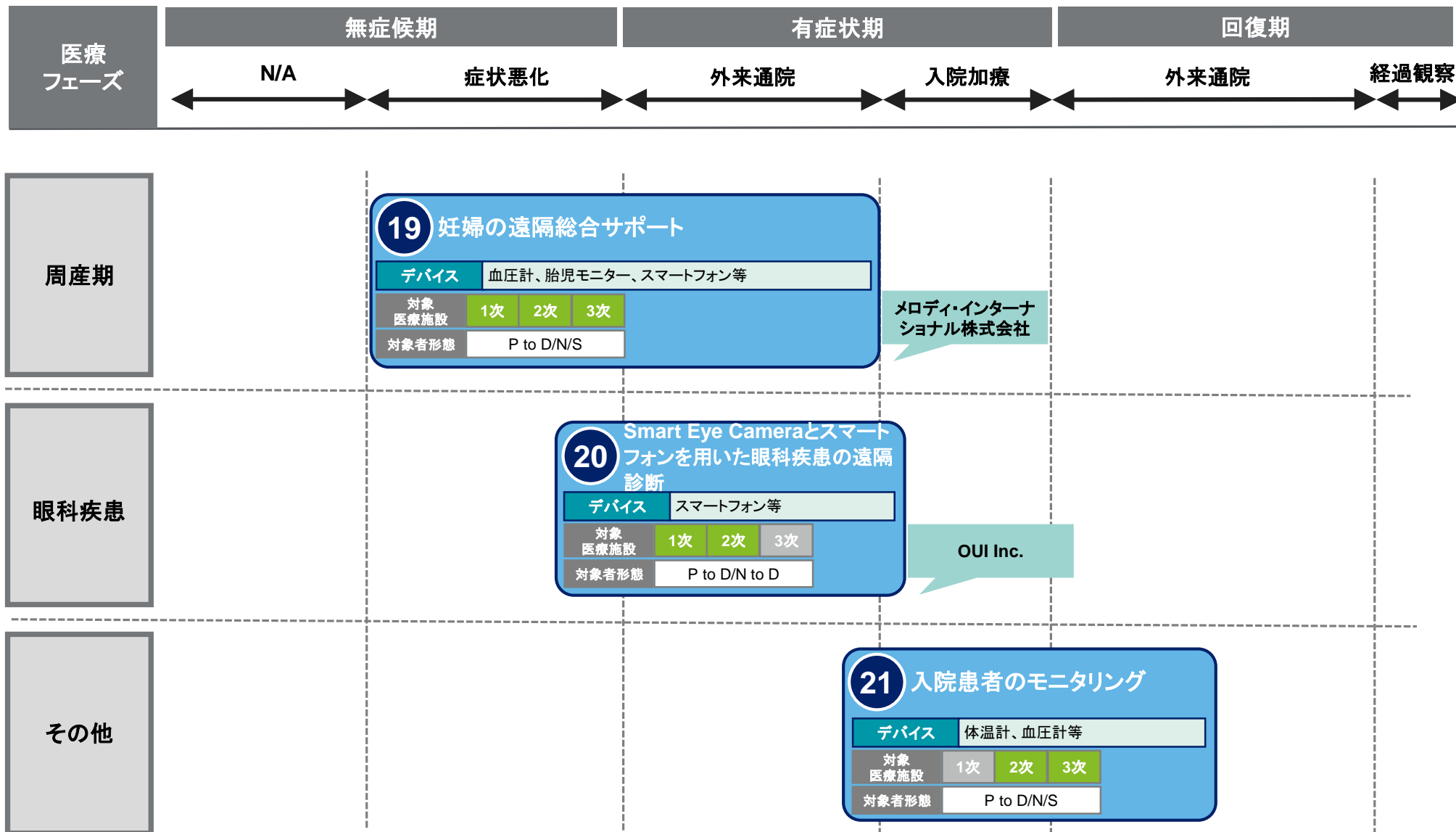
デバイス: スマートフォン、アプリ

対象医療施設: 1次 2次 3次

対象者形態: P to D/N/S^ to Ph

# 参考: ユースケースのマッピング(4/4)

## その他の疾患に対応するユースケース一覧



## 2. インドネシア




2月17日(水) 15:00-17:00(日本時間) 13:00-15:00(現地時間)



インドネシアのカンファレンスでは、第一部でユースケースの発表、第二部にて意見交換を実施しました。

※1 Telemedicine Development Center of Asia (アジア遠隔医療開発センター)

## プログラム概要

		Part I	
			
<b>1</b>	Opening Speech & Purpose of the Conference (Japan's Cabinet Secretariat)	15:00-15:05	13:00-13:05
<b>2</b>	Welcome to Digital Health ※1 (TEMDEC)	15:05-15:10	13:05-13:10
<b>3</b>	Introduction of the Use-cases (Guest Speaker)	15:10-16:00	13:10-14:00

## Break time (5 minutes)

		Part II	
			
<b>4</b>	Q&A session / Discussion	16:05-16:45	14:05-14:45
<b>5</b>	Wrap-up Comment	16:45-16:50	14:45-14:50
<b>6</b>	Online Questionnaire	16:50-16:55	14:50-14:55
<b>7</b>	Closing Speech (TEMDEC)	16:55-17:00	14:55-15:00

インドネシアでは4社が発表を行い、2時間のカンファレンスを実施しました。当日のタイムテーブルは以下の通りです。

## タイムテーブル

時間			プログラム	対応	備考
日本	インドネシア	所要時間			
15:00～15:05	13:00～13:05	5分	挨拶・開催の趣旨説明	内閣官房	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 開催の挨拶</li> <li>✓ 内閣官房より国際カンファレンス開催における背景について</li> </ul>
15:05～15:10	13:05～13:10	5分	ICTを活用した遠隔医療の在り方	九州大学病院	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ ユースケースの紹介の前にICT技術等を活用した遠隔医療への期待値や九大の活動について</li> <li>✓ 参加者の簡易紹介</li> </ul>
15:10～15:22	13:10～13:22	12分	登壇者①プレゼンテーション	国際医療福祉大学三田病院	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ ユースケースの紹介</li> </ul>
15:22～15:34	13:22～13:34	12分	登壇者②プレゼンテーション	株式会社アルム	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ ユースケースの紹介</li> </ul>
15:34～15:46	13:34～13:46	12分	登壇者③プレゼンテーション	メロディ・インターナショナル株式会社	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ ユースケースの紹介</li> </ul>
15:46～15:58	13:46～13:58	12分	登壇者④プレゼンテーション	OUI Inc.	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ ユースケースの紹介</li> </ul>
15:58～16:00	13:58～14:00	2分	プレゼン・登壇者交代のバッファー		
16:00～16:05	14:00～14:05	5分	休憩	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ ネットアンケートの実施のお願いをアナウンス</li> </ul>
16:05～16:45	14:05～14:45	40分	意見伺いタイム ①ユースケースについて ②遠隔医療の現状や課題について	ファシリテーター	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ チャットにて募集した質問に関して登壇者が回答</li> <li>✓ 現地機関の方にも一部発言頂く</li> </ul>
16:45～16:50	14:45～14:50	5分	ラップアップ・コメント	企画委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 意見交換の振り返り・企画委員からのコメント</li> </ul>
16:50～16:55	14:50～14:55	5分	ネットアンケート	司会進行	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ ネットアンケートの記入を依頼</li> </ul>
16:55～17:00	14:55～15:00	5分	挨拶／クロージング	九州大学病院	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 閉会の挨拶</li> </ul>

120分



カンファレンスではユースケースに関してインドネシア医療従事者の意見聴取や、遠隔医療に関する現状について活発に議論を行う事ができました。

## カンファレンスの実施様子(集合写真)



カンファレンスは主催者や事務局の代表者が都内の拠点会場に集まり、感染対策に留意しながら実施しました。

### カンファレンスの実施様子(拠点会場写真)





インドネシアからは7機関・12名の医療従事者の方に、カンファレンスにご参加頂きました。

インドネシア:現地機関の出席者

No	氏名	所属
1	Dr. Budi Rahmat	Pediatric & Congenital Heart Surgery Department, National Cardiovascular Center, Harapan Kita(国立心臓血管センター 小児&先天性心臓外科)
2	Dr. Muhammad Syafrudin Hak	Harapan Kita Hospital National Center for Children and Women's Health (ハラパン・キタ病院国立児童・女性保健センター)
3	Dr. Akira Prayudijanto	
4	Dr. Muhammad Ilhamy	
5	Dr. Andito Adisasmito	
6	Dr. Triyanta Yuli Pramana	Surakarta Branch of Indonesian Society of Gastroenterology (インドネシア消化器学会スラカルタ支部、セベラス・マレット大学 ムワルディ病院にも所属)
7	Dr. Syifa Mustika	Gastro-Entero-Hepatology Division, Internal Medicine Department, Faculty of Medicine, Universitas Brawijaya (ブラウイジャヤ大学医学部内科学科胃腸病学・肝臓学分科、サイフルアンワー病院)
8	Dr. Putut Bayupurnama	Universitas Gadjah Mada (ガジャ・マダ大学)
9	Dr. Dadang Makmun	Indonesia Medical Education and Research Institute (IMERI), Faculty of Medicine, Universitas Indonesia (インドネシア大学医学部/インドネシア医学教育研究所(IMERI))
10	Dr. Aria Kekalih	
11	Dr. Prasandhya Astagiri Yusuf	
12	Dr. Agung Budi Sutiono	Department of Neurosurgery, Faculty of Medicine, Hasan Sadikin Hospital, Universitas Padjadjaran (パジャジャラン大学医学部脳神経外科学科、ハサンサディキン病院)

日本側の出席者として、登壇企業4社、「フィリピン調査案件」の企画委員でもある4名の有識者にご参加頂きました。

### 登壇者・登壇企業関係者

No	氏名	所属・役職
1	田村 雄一	国際医療福祉大学三田病院／国際医療福祉大学医学部 教授
2	武智 峰樹	国際医療福祉大学三田病院 研究員
3	久間木 裕介	株式会社アルム チームプラットフォーム部
4	尾形 優子	メロディ・インターナショナル株式会社 CEO
5	二ノ宮 敬治	メロディ・インターナショナル株式会社 CIO
6	清水 映輔	OUI Inc. Co-Founder / CEO
7	中山 慎太郎	OUI Inc. Vice President of Global Business

### 有識者

No	氏名	所属・役職
1	湯元 昇	国立循環器病研究センター 産学連携コーディネーター
2	坂田 泰史	大阪大学 大学院医学系研究科 教授
3	弓野 大	医療法人社団ゆみの 理事長
4	宮川 一郎	医療法人習志野台整形外科内科 理事長・院長

他5名

# カンファレンスのオブザーバーとして、大使館・関係省庁・関係組織にもご参加頂きました。

## 協力団体・オブザーバー

No	氏名	所属・役職
1	Noer Ibtadail(ユーザー名)	The Bureau of International Cooperation (BIC) of the Ministry of Health(MOH)
2	Mei Setiant, Mei fauzie(ユーザー名)	在京インドネシア共和国大使館
3	井上 大輔	在インドネシア日本国大使館 一等書記官
4	M..(ユーザー名)	在インドネシア日本国大使館 一等書記官
6	石川 史明	厚生労働省医政局総務課
7	秀嶋 由理子	経済産業省ヘルスケア産業課 係長
8	津田 考大	独立行政法人 国際協力機構(JICA) インドネシア事務所
9	森田 大	独立行政法人 国際協力機構(JICA) 人間開発部
10	藤野 太一郎	独立行政法人 国際協力機構(JICA) ガバナンス・平和構築部STI・DX室
11	東 潤一	大阪商工会議所 産業部 ライフサイエンス振興担当兼スポーツ産業振興担当 課長
12	槇山 愛湖	大阪商工会議所 理事・産業部長
13	根来宜克	大阪商工会議所 産業部長
14	小山 正人	日本医療機器産業連合会 技術・流通政策部長
15	包國 幸生	日本医療機器産業連合会アジア分科会／オリンパス(株)
16	船越 國宏	日本医療機器産業連合会アジア分科会／シスメックス(株)
17	武井 次郎	日本医療機器産業連合会アジア分科会／シノテスト(株)

※上記主席者リストでは内閣官房・九州大学・トーマツは除いて記載しています

# インドネシアのカンファレンスに関して、参加者の一覧は以下の通りです。

## 参考:出席者一覧(スクリーンショット)



インドネシア医療従事者

閉じる 参加者 (55)

K	Kanekuni_OLYMPUS (ゲスト)		
	Kij, Megumi		
KT	KOTA TSUDA (ゲスト)		
KF	Kunihiro Funakoshi (ゲスト)		
K	kuricom@tem.med.kyu... (ゲスト)		
MS	M Setianto - ID Emb To... (ゲスト)		
M	makiyama (ゲスト)		
MS	Masako Saito (ゲスト)		
MK	Masato KOYAMA (ゲスト)		
MF	mei fauzie_indonesian... (ゲスト)		

閉じる 参加者 (55)


PA	Prasandhya Astagiri Yu... (ゲスト)		
RF	Prof. Dadang Makmun,... (ゲスト)		
	Putut Bayupurnama (ゲスト)		
SN	Sachiyo, Nakamura (ゲスト)		
	Shimizu, Kyushu U, JP (ゲスト)		
	Shintaro Nakayama (ゲスト)		
	Syafrudin_RSAB Harap... (ゲスト)		
TF	Taichiro Fujino(JICA) (ゲスト)		
TO	Takeuchi_Secretariat o... (ゲスト)		
TK	TEMDEC - Kyushu Uni... (ゲスト)		

閉じる 参加者 (55)







	Melody i (ゲスト)		
	Melody Yhuko (ゲスト)		
MH	meti_yuriko hideshima (ゲスト)		
MT	Mineki TAKECHI (ゲスト)		
	Moriyama, Kyushu U, JP (ゲスト)		
NA	nagisa aoki (ゲスト)		
NO	NEGORO, OCCI (ゲスト)		
NY	Noboru YUMOTO (NC... (ゲスト)		
	Noer Ibtidail_BIC MoH... (ゲスト)		
	OCCI (ゲスト)		

# インドネシアのカンファレンスに関して、参加者の一覧は以下の通りです。

## 参考:出席者一覧(スクリーンショット)

 インドネシア医療従事者




閉じる 参加者 (55)

-  Ayaka Kosaka(Japan's... (ゲスト)  
-  ayaka Kosaka\_JP Cabi... (ゲスト)  
-   Budi Rahmat - NCC Ha... (ゲスト)  
-  Dai Morita (ゲスト)  
-  DAIYUMINO (ゲスト)  
-  Eisuke Shimizu (OUI In... (ゲスト)  
-   FKUB RSSA Syifa Must... (ゲスト)  
-  Indonesia Embassy - M... (ゲスト)  
-  Ishikawa MHLW (ゲスト)  
-  Jiro Takei, Shino-Test... (ゲスト)  

招待 ...









閉じる 参加者 (55)

検索

-  Kotomi\_Secreta... (共同ホスト、自分)  
-  Nakamura, ... (ホスト、通訳者)  
-  Kotomi\_Secretariat (共同ホスト)  
-  Aoki, Nagisa (通訳者)  
-  Kumaki\_Allm Inc. (ゲスト)  
-   Agung Budi Sutiono, dr... (ゲスト)  
-   AKIRA P\_RSAB Harapa... (ゲスト)  
-   A Andito Ophthalmologist... (ゲスト)  
-   Aria Kekalih (ゲスト)  

招待 ...

閉じる 参加者 (55)

-   Syafrudin\_RSAB Harap... (ゲスト)  
-  Taichiro Fujino(JICA) (ゲスト)  
-  Takeuchi\_Secretariat o... (ゲスト)  
-  TEMDEC - Kyushu Uni... (ゲスト)  
-  Timekeeper(苑) (ゲスト)  
-  Tomonari Takeuchi\_Del... (ゲスト)  
-   TriyantaYuli Pramana (ゲスト)  
-  Yuan, Yi  
-  Yuichi Tamura (ゲスト)  
-  大輔 大輔 井上 (ゲスト)  

招待 ...

カンファレンスでは第一部の日本側のプレゼンテーションの間にチャット欄にてコメントや質問を募集し、第二部の意見交換で登壇企業より回答を行いました。

## チャット欄に寄せられたコメント・質問(1/2)

### 国際医療福祉大学三田病院への質問



I have 2 questions related to AI software:

1. How much the percentage of error that made by this system ?
2. The source of information are majorly from the patients, how could you avoid the wrong information from them?

AIソフトウェアについて2点の質問があます:

1. このシステムのエラー発生率はどれぐらいあるのか。
2. 情報源は主に患者からのものであるが、どのように患者からの間違った情報を避けることができるのか。

Dr. Budi Rahmat 国立心臓血管センター 小児 & 先天性心臓外科

### 株式会社アルムへの質問



We are from Brawijaya University interesting with ALLM INC product, how we can try or apply for our institution?

私たちはブラウイジャヤ大学です、株式会社アルムの製品に興味を持っていますが、どのように申し込めばいいでしょうか。

Dr. Syifa Mustika ブラウイジャヤ大学医学部内科学科胃腸病学・肝臓学分科



Is there any registration fee and cross country consultation fee to join JOIN? We are starting educational hospital collaboration with JICA in yesterday meeting. How to apply use this platform? Is this hospital to hospital agreement or G to G agreement?

「Join」を使用する為の登録料、利用時のコンサルテーションはかかるのか。昨日の会議でJICAと教育に関して病院間の連携を開始しました。このプラットフォームをどのように適用し利用すればいいでしょうか。病院間又は政府間の協定になりますか。

Dr. Aria Kekalih インドネシア大学医学部/インドネシア医学教育研究所 (IMERI)



カンファレンスでは第一部の日本側のプレゼンテーションの間にチャット欄にてコメントや質問を募集し、第二部の意見交換で登壇企業より回答を行いました。

## チャット欄に寄せられたコメント・質問(2/2)

### メロディ・インターナショナル株式会社への質問



I am interest about MELODY, may I have detail written information for implementation iCTG Monitoring at Labor Room.

メロディ・インターナショナル株式会社の製品に興味を持っているが、分娩室でのiCTGモニタリング実装に関して詳細な情報をお願いしたいです。

Dr.Ilhamy ハラパン・キタ病院国立児童・女性保健センター



When patient were being monitored by Melody, did they buy the device or just borrow it and give it back after delivery?

メロディ社の胎児モニターの私用する際、妊婦はデバイスを購入するのか、又はレンタルの後に返却するのですか。

Dr. Aria Kekalih インドネシア大学医学部/インドネシア医学教育研究所 (IMERI)

### OUI Inc.への質問



I am interested in using and developing smartphones (ICT device) for diagnostic tools in anterior and posterior eye disease. And specifically for my hospital as the national center for children and women health, I am interested in developing the tools as a vision screener tools and also for diagnostic tools specifically for newborns and children (example: to detect leucocoria in congenital cataract or reinoblastoma). We in Harapan Kita hospital really appreciate if further cooperation is possible.

前眼疾患の診断ツールとしてスマートフォン (ICTデバイス) を利用することに興味関心を持っています。子どもと女性の健康のための国立センター (病院) に所属しており、特に、新生児や子供向けの眼科疾患検査ツールの開発に興味があり (白内障検出等)、各病院にカスタマイズした視力検査ツールの開発は可能でしょうか。今後、連携する事ができたら大変有難いです。

Dr. Andito Adisasmito ハラパン・キタ病院国立児童・女性保健センター

カンファレンスの最後にはWeb形式のアンケートを実施し、カンファレンスの感想や個別フォローアップの希望等の情報を収集しました。

アンケート回答者: インドネシア

12名中10名が回答

No	氏名	所属
1	Dr. Budi Rahmat, SpBTKV(K)	Pediatric Cardiac Surgery, National Cardiovascular Center, Harapan Kita
2	Syifa Mustika	Universitas Brawijaya
3	Triyanta Yuli Pramana	Surakarta Branch of Indonesian Society of Gastroenterology (セベラス・マレット大学 ムワルディ病院にも所属)
4	Andito Adisasmito	Harapan Kita Hospital National Center for Children and Women's Health
5	Akira Prayudijanto	Harapan Kita Hospital, National Center for Children and Women's Health
6	Muhamad Ilhamy, dr, SpOGK	Harapan Kita, Mother & Child Hospital
7	M.Syafrudin Hak	RSAB Harapan Kita Jakarta
8	Aria Kekalih	Faculty of Medicine Universitas Indonesia
9	Agung Budi Sutiono	Department of Neurosurgery Padjadjaran Univ. Hasan Sadikin Hospital
10	Dadang Makmun	Indonesian Society of Gastroenterology

日本

No	氏名	所属
1	武井次郎	株式会社シノテスト
2	Dai Morita	Japan International Cooperation Agency
3	Taichiro Fujino	Japan International Cooperation Agency
4	Yusuke Kumaki	Allm Inc
5	Shintaro Nakayama	OUI Inc.
6	Noboru Yumoto	NCVC, Japan

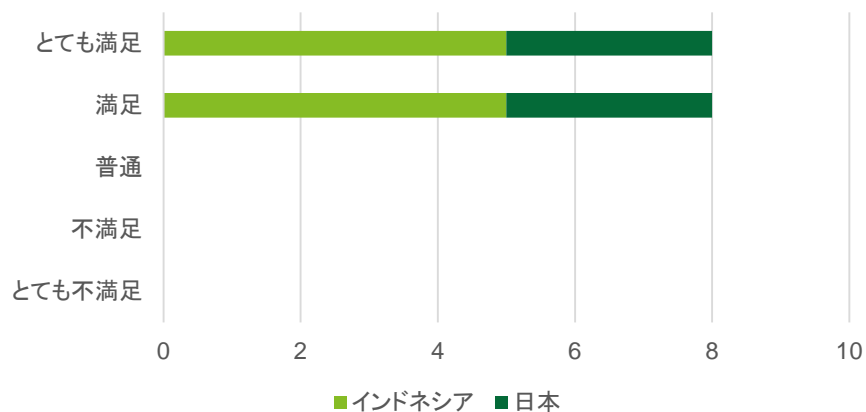
※九州大学より3名からアンケートのご回答頂きましたが、分析対象からは除いております

# アンケートを分析した結果、インドネシア側、日本側いずれも一定の満足度を得ることが出来ました。

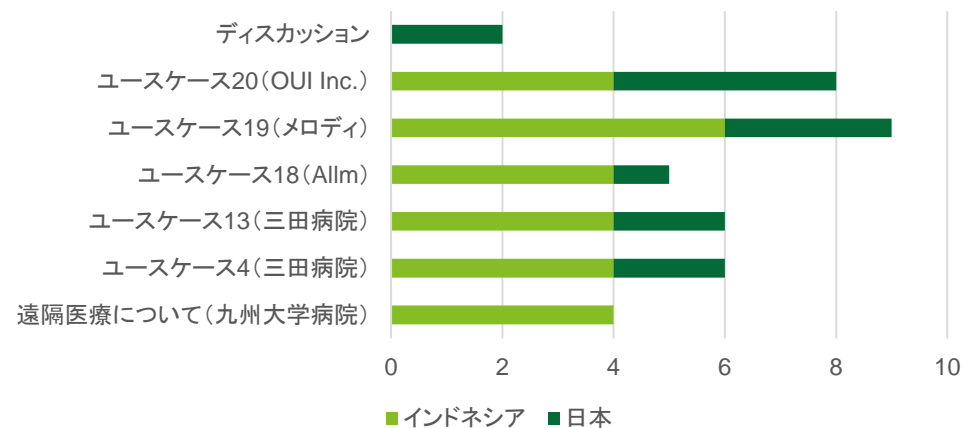
## アンケート結果(1/3)

n=16: インドネシア側(10名)、日本側(6名)

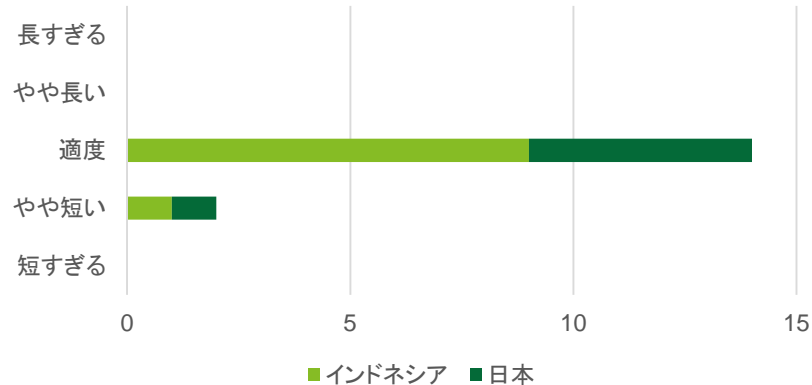
Q.本日の国際カンファレンスの満足度を教えてください



Q.最も満足度が高かったコンテンツを3つ教えてください



Q.時間の長さは適切でしたか



Q.ユースケースの登壇者あるいは登壇者の所属する企業、組織からの個別連絡を希望しますか(インドネシア側からの回答)

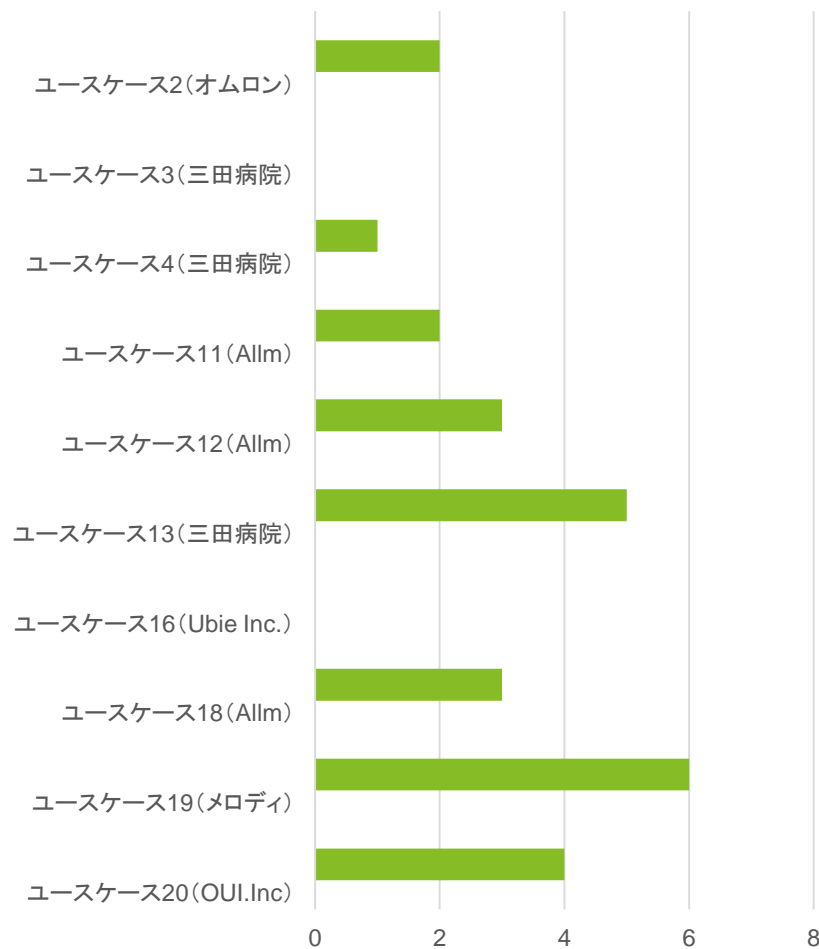


# 「詳細情報を知りたいユースケース」に関する質問では下記の回答を得ました。カンファレンス後には企業より個別フォローアップ連絡が実施されました。

## アンケート結果(2/3)

Q. 今後、もっと情報を知りたいユースケースがあれば教えてください

No	ユースケース	当該ユースケースに関心のある参加者
2	Obtaining vital data on healthy individuals in collective housing areas	Syifa Mustika, Aria Kekalih,
3	Home care management support for patients with severe heart disease	
4	AI support for diagnosing arrhythmias	Budi Rahmat, SpBTKV(K)
11	Sharing of hospital acceptance of COVID-19	M.Syafrudin Hak, Agung Budi Sutiono
12	Continuous management of COVID-19 patients and accumulation of information	Triyanta Yuli Pramana, Agung Budi Sutiono, Dadang Makmun
13	Treatment of mild COVID-19 patients using AI remote monitoring	Budi Rahmat, SpBTKV(K), Syifa Mustika, Aria Kekalih, Agung Budi Sutiono, Dadang Makmun
16	Pre-outpatient interviews at hospitals and homes utilizing AI	
18	Regional medical cooperation through the medical ICT system	Syifa Mustika, Aria Kekalih, Dadang Makmun
19	Remote comprehensive support for pregnant women	Syifa Mustika, Andito Adisasmito, Muhamad Ilhamy, dr, SpOGK, Akira Prayudijanto, M.Syafrudin Hak,
20	Remote diagnosis of ophthalmic diseases using Smart Eye Camera and smartphones	Andito Adisasmito, Akira Prayudijanto, M.Syafrudin Hak, Aria Kekalih



# 参加者からの感想では、個別面談希望や導入コスト情報といった具体的な情報交換を希望する声が挙げられました。

## アンケート結果(3/3)

Q.「今回のカンファレンスに対する感想や改善点、今後取り扱ってほしいテーマなどあれば、教えてください」への回答

Quite good enough  
(Dr. Syifa Mustika, Universitas Brawijaya)

Can we make special meeting for every hospital or institution?  
(Akira Prayudijanto, Harapan Kita National Hospital Center for Children and Women's Health)

Can we expand the topic?  
(Dr. Akira Prayudijanto, Harapan Kita Hospital, National Center for Children and Women's Health)

It will be useful  
(Dr. Agung Budi Sutiono, Department of Neurosurgery Padjadjaran Univ. Hasan Sadikin Hospital)

suggestion we make special time/ meeting with our hospital  
(Dr. M.Syafrudin Hak, RSAB Harapan Kita Jakarta)

Need to better quality of sounds at Secretariat  
(森様、富松様、九州大学病院)

Provide us the financial illustration or health cost analysis to implement the breakthrough telemedicine platform so we can assess the feasibility to apply it in Indonesia  
(Dr. Aria Kekalih, Faculty of Medicine Universitas Indonesia )

### 3. ベトナム





**3月4日(木) 15:00-17:00(日本時間) 13:00-15:00(現地時間)**

ベトナムのカンファレンスでは、第一部でユースケースの発表、第二部にて意見交換を実施しました。



## プログラム概要

### Part I

		
<b>1</b> Opening Speech & Purpose of the Conference (Japan's Cabinet Secretariat)	15:00-15:08	13:00-13:08
<b>2</b> Welcome to Digital Health (TEMDEC)	15:08-15:13	13:08-13:13
<b>3</b> Introduction of the Use-cases (Guest Speaker)	15:13-16:07	13:13-14:07

Break time (5 minutes)

### Part II

		
<b>4</b> Q & A session / Discussion	16:12-16:47	14:12-14:47
<b>5</b> Wrap-up Comment	16:47-16:52	14:47-14:52
<b>6</b> Online Questionnaire	16:52-16:55	14:52-14:55
<b>7</b> Closing Speech (TEMDEC)	16:55-17:00	14:55-15:00

ベトナムでは4社が発表を行い、2時間のカンファレンスを実施しました。当日のタイムテーブルは以下の通りです。

## タイムテーブル

時間			プログラム	対応	備考
日本	ベトナム	所要時間			
15:00~15:02	13:00~13:02	2分	進行上の留意点説明	司会	✓ 通訳機能等について
15:02~15:08	13:02~13:08	6分	挨拶・開催の趣旨説明	内閣官房	✓ 開催の挨拶 ✓ 内閣官房より国際カンファレンス開催における背景について
15:08~15:13	13:08~13:13	5分	ICTを活用した遠隔医療の在り方	九州大学病院	✓ ユースケースの紹介の前にICT技術等を活用した遠隔医療への期待値や九大の活動について ✓ 参加者の簡易紹介
15:13~15:15	13:13~13:15	3分	ユースケースリスト概要説明	ファシリテーター	✓ ユースケースリストの概要説明
15:15~15:27	13:15~13:27	12分	登壇者①プレゼンテーション	国際医療福祉大学三田病院	✓ ユースケースの紹介
15:27~15:39	13:27~13:39	12分	登壇者②プレゼンテーション	株式会社アルム	✓ ユースケースの紹介
15:39~15:51	13:39~13:51	12分	登壇者③プレゼンテーション	Ubie株式会社	✓ ユースケースの紹介
15:51~16:03	13:51~14:03	12分	登壇者④プレゼンテーション	OUI Inc.	✓ ユースケースの紹介
16:03~16:05	14:03~14:05	2分	プレゼン・登壇者交代のバッファー		
16:05~16:07	14:05~14:07	2分	コメント書込み依頼	ファシリテーター	✓ コメント書込み依頼をアナウンス
16:07~16:12	14:07~14:12	5分	休憩およびコメント書込み	司会	
16:12~16:47	14:12~14:47	35分	意見伺いタイム ①ユースケースについて ②遠隔医療の現状や課題について	ファシリテーター	✓ チャットにて募集した質問に関して登壇者が回答 ✓ 現地機関の方にも一部発言頂く
16:47~16:52	14:47~14:52	5分	ラップアップ・コメント	企画委員	✓ 意見交換の振り返り・企画委員からのコメント
16:52~16:55	14:52~14:55	3分	ネットアンケート	司会進行	✓ ネットアンケートの記入を依頼
16:55~17:00	14:55~15:00	5分	挨拶／クロージング	九州大学病院	✓ 閉会の挨拶



カンファレンスではユースケースに関してベトナムの医療従事者からの意見聴取や、遠隔医療に関する現状について議論を行う事ができました。

カンファレンスの実施様子(集合写真)



カンファレンスは主催者や事務局の代表者が都内の拠点会場に集まり、感染対策に留意しながら実施しました。

### カンファレンスの実施様子(拠点会場写真)





## ベトナムからは8機関・22名の医療従事者の方にカンファレンスにご参加頂きました。

## ベトナム: 現地機関の出席者

No	氏名	所属
1	Dr. Le Thanh Ni(他2名、合計3人)	Cho Ray Hospital(チョーライ病院)
2	Dr. Tran Viet Hung	Bach Mai hospital(バックマイ病院)
3	Dr. Nguyen Thi van Ngoc	
4	Dr. Phong Le Hong	
5	Dr. Truong Xuan Long	
6	Dr. Le Minh Tan	Hue University of Medicine and Pharmacy (フエ医科薬科大学)
7	Dr. Le Quang Nhan	University Medical Center HCMC (ホーチミン大学メディカルセンター)
8	Dr. Le Ngoc Anh	Hanoi Medical University (ハノイ医科大学)
9	Dr. Ha Phan Hai-An	
10	Dr. Cao Duc Minh	NASATI Office (国立科学技術情報局)
11	Dr. Hoang Cuong	Vietnam National Institute of Ophthalmology (ベトナム国立眼科病院)
12	Dr. Pham Nhu Vinh Tuyen	Hue Central Hospital(フエ中央病院)
13	Dr. Tran Nhu Nguyen Phuong	
14	Dr. Le Loc(他6名、合計9人)	

日本側の出席者として、登壇企業4社、「フィリピン調査案件」の企画委員でもある4名の有識者にご参加頂きました。

### 登壇者・登壇企業関係者

No	氏名	所属・役職
1	田村 雄一	国際医療福祉大学三田病院／国際医療福祉大学医学部 教授
2	武智 峰樹	国際医療福祉大学三田病院 研究員
3	久間木 裕介	株式会社アルム チームプラットフォーム部
4	島津 尚人	Ubie株式会社 (Ubie Singapore) CEO
5	Terence Tan	Ubie株式会社 (Ubie Singapore) Medical Director
6	清水 映輔	OUI Inc. Co-Founder / CEO
7	中山 慎太郎	OUI Inc. Vice President of Global Business

### 有識者

No	氏名	所属・役職
1	湯元 昇	国立循環器病研究センター 産学連携コーディネーター
2	坂田 泰史	大阪大学 大学院医学系研究科 教授
3	弓野 大	医療法人社団ゆみの 理事長
4	宮川 一郎	医療法人習志野台整形外科内科 理事長・院長

他5名

カンファレンスのオブザーバーとして大使館・関係省庁・関係組織にもご参加頂きました。

協力団体・オブザーバー

No	氏名	所属・役職
1	土橋 明子	外務省南部アジア部南東アジア第一課外務事務官
2	清水 貴也	在ベトナム日本国大使館一等書記官
3	高島 恭子	独立行政法人 国際協力機構(JICA)ベトナム事務所企画調査員
4	石川 史明	厚生労働省医政局総務課
6	秀嶋 由理子	経済産業省ヘルスケア産業課 係長
7	藤野 太一郎	独立行政法人 国際協力機構(JICA) ガバナンス・平和構築部STI・DX室
8	槇山 愛湖	大阪商工会議所 理事・産業部長
9	根来宜克	大阪商工会議所 産業部長
10	小山 正人	日本医療機器産業連合会 技術・流通政策部長
11	包國 幸生	日本医療機器産業連合会アジア分科会／オリンパス(株)

# ベトナムのカンファレンスに関して、参加者の一覧は以下の通りです。

参考: 出席者一覧(スクリーンショット)



ベトナム医療従事者

- TT Takeuchi Tomonari
- TK TEMSEC KUH
- Tomohiko Moriyama
- Truong Xuan Long\_Hue University of Medicine and Pharmacy
- TM Tân Minh (Hue Univ, Vietnam)
- Yasushi Sakata@Osaka University
- Yuan, Yi
- YT Yuichi Tamura@IUHW and Cardiointelligence
- 健 健康・医療戦略室 磯崎
- 医 医機連 小山
- 青 青木 (トーマツ通訳用) (通訳者)
- 青 青木 (トーマツ)
- DC Dr Cuong-VNIO-Hanoi
- Kii, Megumi

- S Secretariat\_Kotomi (私)
- Takeuchi, Tomonari (ホスト)
- Secretariat\_Kotomi (共同ホスト)
- Yuan, Yi (共同ホスト)
- Nakamura, Sachiyo (通訳者)
- TU TEMDEC/Kyushu University Hospital
- AT Akiko Tsuchihashi
- ak ayaka kosaka\_cas
- T Bach mai Hospital
- CK CAS\_Ayaka Kosaka
- CN CAS\_Hiromitsu Negishi
- CI CAS\_Makiko Isozaki
- CF CAS\_Naru Fujimaki
- CY CAS\_Yu Yoshida

- Shintaro Nakayama/OUI Inc.
- Shuji Shimizu
- TK Takashima Kyoko
- TT Takeuchi Tomonari
- TK TEMSEC KUH
- Tomohiko Moriyama
- Truong Xuan Long\_Hue University of Medicine and Pharmacy
- TM Tân Minh (Hue Univ, Vietnam)
- Yasushi Sakata@Osaka University
- Yuan, Yi
- YT Yuichi Tamura@IUHW and Cardiointelligence
- 健 健康・医療戦略室 磯崎
- 医 医機連 小山
- 青 青木 (トーマツ通訳用) (通訳者)

# ベトナムのカンファレンスに関して、参加者の一覧は以下の通りです。

参考:出席者一覧(スクリーンショット)



ベトナム医療従事者

- CS** CAS\_Yuki Shono
- Cho Ray Hospital
- DY** Dai Yumino
- DC** Dr Cuong- VNIO- Hanoi
- Dr T
- Dr. Lê Quang Nhân (University Medical Center, Ho Chi Minh city)
- Eisuke Shimizu/OUI Inc.
- HA** Hai An
- HUE CENTRAL HOSPITAL
- JF** JICA\_Taichiro Fujino
- K** Kanekuni\_OLYMPUS
- KM** Kii, Megumi
- K(** Kumaki (Allm Inc.)
- LN** Le Ngoc Anh - Hanoi Medical University



- m** makiyama
- m** manishino
- MS** Masako Saito
- m** masanishimura
- mh** meti\_yuriko hideshow
- MI** MHLW Ishikawa
- MH** Miho Hayata
- M** Minh-VinaREN
- Miyagawa
- N|** Naoto | Ubie
- NY** Noboru YUMOTO (NCVC, Japan)
- O** OCCI
- SN** Sachiyo, Nakamura
- Sakurai, Osamu

カンファレンスでは第一部の日本側のプレゼンテーションの間にチャット欄にてコメントや質問を募集し、第二部の意見交換で登壇企業より回答を行いました。

## チャット欄に寄せられたコメント・質問

### 株式会社アルムへの質問



Requirement to use/join JOIN from a hospital outside Japan. Is this a separate plan or need to join a Japan project/team?

日本国外の病院からJOINを使用/参加するための要件は何か。これは独立したプランになるのか、それとも、日本のプロジェクト/チームに参加する必要があるのか。

Dr. Cao Duc Minh 国立科学技術情報局

### OUI Inc.への質問



How much money for smart eye device.

Smart Eye Cameraの価格を教えてください。

バックマイ大学

### Ubie Inc.への質問



What will we have to prepare to apply the Ubie system for our hospital? How about the risk of patients' data leaking? What does the Ubie system cost?

当院にUbieシステムを適用するために準備すべき事は何か、患者さんのデータ流出のリスクはあるのか、Ubieシステムのコストはどの程度か。

Dr.Truong Xuan Long フェ工医科薬科大学



カンファレンスの最後にはWeb形式のアンケートを実施し、カンファレンスの感想や個別フォローアップの希望等の情報を収集しました。

アンケート回答者:ベトナム

22名中10名が回答

No	氏名	所属
1	Le Quang Nhan	Univeristy Medical Center at Ho ChiMinh city
2	Minh Cao	VinaREN/National Agency for Science and Technology Information(NASATI)
3	Tran Viet Hung	Bach Mai Hospital
4	Pham Thi Van Ngoc	Bach Mai hospital
5	Le Thanh Ni	Cho Ray Hospital
6	Pham Nhu Vinh Tuyen	Hue Central Hospital
7	Ha Phan Hai An	Hanoi Medical University
8	Phong Le Hong	Bach mai hospital
9	Truong Xuan Long	Hue University of Medicine and Pharmacy
10	Nguyen, Tat Dung	Hue Central Hospital

## 日本

No	氏名	所属
1	Yusuke Kumaki	Allm Inc
2	Noboru Yumoto	NCVC, Japan

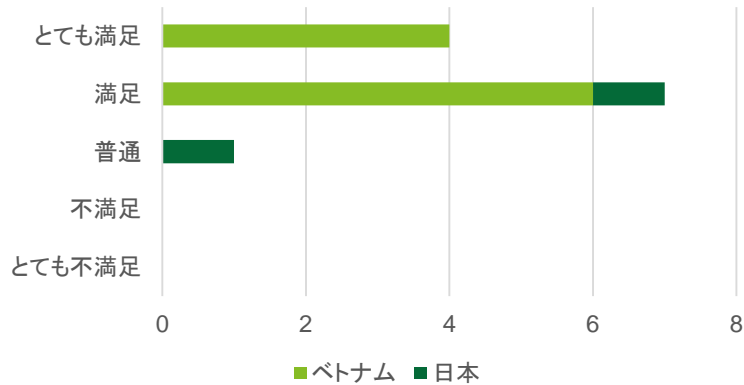
※九州大学様(3名)もアンケートにご回答頂きましたが、分析対象からは除いております

# アンケートを分析した結果、ベトナム側、日本側いずれも一定の満足度を得ることが出来ました。

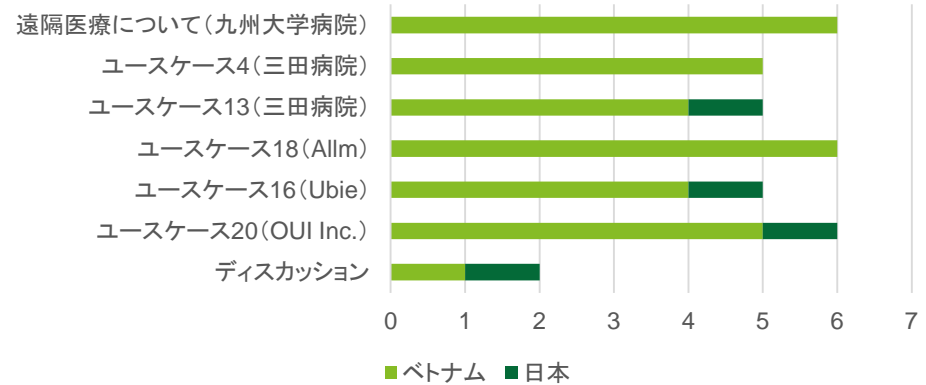
## アンケート結果(1/3)

n=12: ベトナム側(10名)、日本側(2名)

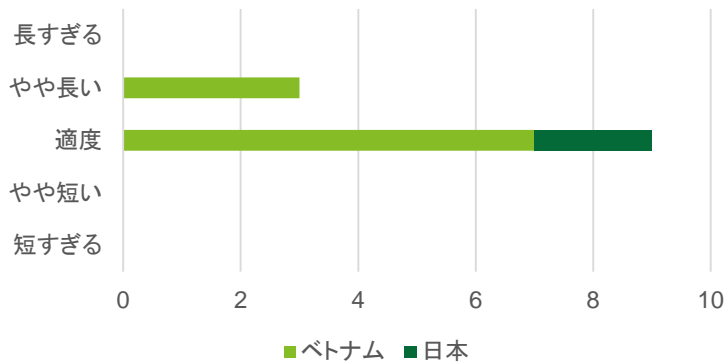
### Q.本日の国際カンファレンスの満足度を教えてください



### Q.最も満足度が高かったコンテンツを3つ教えてください



### Q.時間の長さは適切でしたか



### Q.ユースケースの登壇者あるいは登壇者の所属する企業、組織からの個別連絡を希望しますか(ベトナム側からの回答)

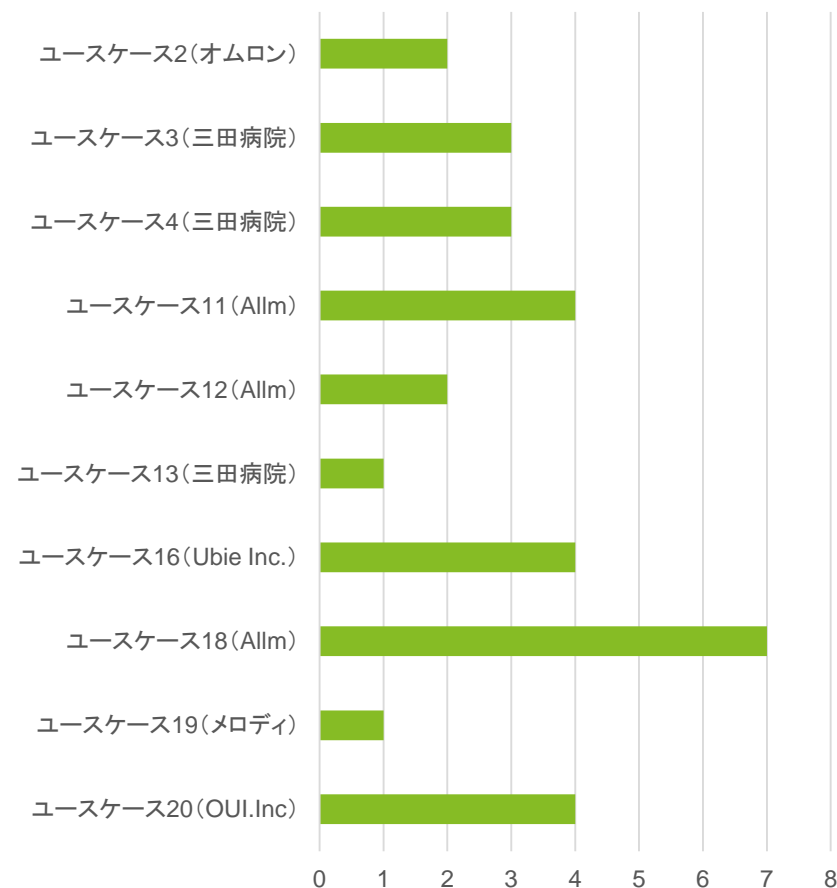


# 「詳細情報を知りたいユースケース」に関する質問では下記の回答を得ました。カンファレンス後には企業より個別フォローアップ連絡が実施されました。

## アンケート結果(2/3)

Q. 今後、もっと情報を知りたいユースケースがあれば教えてください

No	ユースケース	当該ユースケースに関心のある参加者
2	Obtaining vital data on healthy individuals in collective housing areas	Ha Phan Hai An, Phong Le Hong
3	Home care management support for patients with severe heart disease	Le Quang Nhan, Tran Viet Hung, Pham Thi Van Ngoc
4	AI support for diagnosing arrhythmias	Le Quang Nhan, Minh Cao, Phong Le Hong
11	Sharing of hospital acceptance of COVID-19	Minh Cao, Le Thanh Ni, Phong Le Hong, Truong Xuan Long
12	Continuous management of COVID-19 patients and accumulation of information	Phong Le Hong, Truong Xuan Long,
13	Treatment of mild COVID-19 patients using AI remote monitoring	Phong Le Hong
16	Pre-outpatient interviews at hospitals and homes utilizing AI	Minh Cao, Tran Viet Hung, Phong Le Hong, Truong Xuan Long
18	Regional medical cooperation through the medical ICT system	Le Quang Nhan, Tran Viet Hung, Le Thanh Ni, Pham Nhu Vinh Tuyen, Ha Phan Hai An, Phong Le Hong, Truong Xuan Long
19	Remote comprehensive support for pregnant women	Phong Le Hong
20	Remote diagnosis of ophthalmic diseases using Smart Eye Camera and smartphones	Minh Cao, Le Thanh Ni, Pham Nhu Vinh Tuyen, Phong Le Hong, Nguyen Tat Dung



# ベトナム側参加者からの意見収集のため、アンケートに加えてZoomの投票機能を活用しました。

## アンケート結果(3/3)・投票結果

遠隔医療の普及に向けた重要ファクターについての質問については、Human resourcesとBehavior changeの重要性が高いとの結果になりました

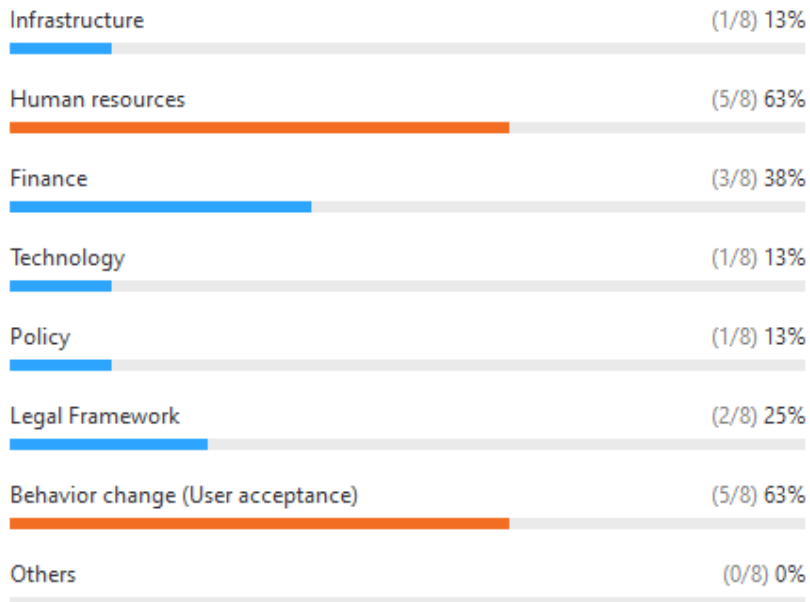
アンケートでの参加者からの感想(自由記載)は National Agency for Science and Technology Information (NASATI)からの1件のみでした

投票結果の共有

視聴者が投票結果を表示しています

I hope we can have more conference like this, inviting more doctor, especially leading doctor  
(Mr. Minh Cao, VinaREN/NASATI)

### 1. What is the most critical factor to disseminate telemedicine in Vietnam? (複数選択)



## 4. フィリピン





3月10日(水) 14:00-17:00(日本時間) 13:00-16:00(現地時間)

フィリピンのカンファレンスでは3部制で、ユースケースの発表・意見交換・ICT医療センターのコンセプトについての協議を実施しました。

## プログラム概要

### Part I

<b>①</b>	Opening Speech & Purpose of the Conference (Japan's Cabinet Secretariat)	 14:00-14:08	 13:00-13:08
<b>②</b>	Welcome to Digital Health (TEMDEC)	14:08-14:13	13:08-13:13
<b>③</b>	Introduction of the Use-cases ① (Guest Speaker)	14:13-15:05	13:13-14:05

Break time (5 minutes)

### Part II

<b>④</b>	Q & A session / Discussion ①	15:10-15:25	14:10-14:25
<b>⑤</b>	Introduction of the Use-cases ② (Guest Speaker)	15:25-15:55	14:25-14:55

Break time (5 minutes)

### Part III

<b>⑥</b>	Q & A session / Discussion ②	16:00-16:30	15:00-15:30
<b>⑦</b>	Concept of ICT medical center	16:30-16:45	15:30-15:45
<b>⑧</b>	Wrap-up Comment	16:45-16:50	15:45-15:50
<b>⑨</b>	Online Questionnaire	16:50-16:55	15:50-15:55
	Closing Speech (TEMDEC)	16:55-17:00	15:55-16:00

フィリピンでは5社が発表を行い、3時間のカンファレンスを実施しました。当日のタイムテーブルは以下の通りです。

## タイムテーブル

時間			プログラム	対応	備考
日本	フィリピン	所要時間			
<b>Part I</b>					
14:00～14:02	13:00～13:02	2分	進行上の留意点説明	司会	✓ 通訳機能等について
14:02～14:08	13:02～13:08	6分	挨拶・開催の趣旨説明	内閣官房	✓ 開催の挨拶 ✓ 内閣官房より国際カンファレンス開催背景
14:08～14:13	13:08～13:13	5分	ICTを活用した遠隔医療の在り方	九州大学病院	✓ ユースケースの紹介の前にICT技術等を活用した遠隔医療への期待値や九大の活動について
14:13～14:18	13:13～13:18	5分	ユースケースリスト概要説明	ファシリテーター	✓ ユースケースリストの概要説明 ✓ コメント書込み依頼をアナウンス
14:18～14:33	13:18～13:33	15分	登壇者①プレゼンテーション	国際医療福祉大学三田病院	✓ ユースケースの紹介
14:33～14:48	13:33～13:48	15分	登壇者②プレゼンテーション	Ubie株式会社	✓ ユースケースの紹介
14:48～15:03	13:48～14:03	15分	登壇者③プレゼンテーション	オムロン株式会社	✓ ユースケースの紹介
15:03～15:05	14:03～14:05	2分	プレゼン・登壇者交代のバッファー		
<b>Part II</b>					
15:05～15:10	14:05～14:10	5分	休憩およびコメント書込み	司会	
15:10～15:25	14:10～14:25	15分	意見伺いタイム①	ファシリテーター	✓ プレゼン①～③の質疑応答
15:25～15:40	14:25～14:40	15分	登壇者④プレゼンテーション	Melody International	✓ ユースケースの紹介
15:40～15:55	14:40～14:55	15分	登壇者⑤プレゼンテーション	OUI Inc.	✓ ユースケースの紹介
15:55～16:00	14:55～15:00	5分	休憩およびコメント書込み	司会	
<b>Part III</b>					
16:00～16:30	15:00～15:30	30分	意見伺いタイム②		✓ プレゼン④～⑤の質疑応答 ✓ 遠隔医療の現状や課題について
16:30～16:35	15:30～15:35	5分	ICT医療センター構想のプレゼン	ファシリテーター	
16:35～16:45	15:35～15:45	10分	意見伺いタイム③	ファシリテーター	✓ 投票機能活用 ✓ 意見交換
16:45～16:50	15:45～15:50	5分	ラップアップ・コメント	企画委員	✓ 意見交換の振り返り・企画委員からのコメント
16:50～16:55	15:50～15:55	5分	ネットアンケート	司会進行	✓ ネットアンケートの記入を依頼
16:55～17:00	15:55～16:00	5分	挨拶／クロージング	九州大学病院	✓ 閉会の挨拶



カンファレンスではユースケースに関するフィリピン医療従事者の意見聴取や、遠隔医療に関する現状について活発に議論を行う事ができました。

### カンファレンスの実施様子(集合写真)



カンファレンスは主催者や事務局の代表者が都内の拠点会場に集まり、感染対策に留意しながら実施しました。

### カンファレンスの実施様子(拠点会場写真)



# フィリピンからは10機関・12名の医療従事者の方にカンファレンスにご参加頂きました。

## フィリピン: 現地機関の出席者

No	氏名	所属
1	Dr. Benedict Edward Valdez	Southern Philippines Medical Center (フィリピン南部医療センター)
2	Dr. Maritess Baloran	Baguio General Hospital and Medical Center (バギオ総合病院)
3	Dr. Jeriel de Silos	De La Salle University Medical Center (デ・ラ・サール大学医療センター)
4	Dr. Djhoanna Aguirre-Pedro	
5	Dr. Vivencio Jose Villaflor	Dagupan Doctors Villaflor Memorial Hospital (ダグパン・ドクターズ・ビラフラー・記念病院)
6	Dr. Jeffrey Domino	St. Luke's Medical Center & College of Medicine (セントルークス医療センター・医科大学)
7	Dr. Ana Melissa Hilvano-Cabungcal	University of Philippines - Philippines General Hospital (フィリピン大学フィリピン総合病院)
8	Dr. Calvin S. de los Reyes	
9	Dr. Danilo S. Castro Jr.	Vicente Sotto Memorial Medical Center (ビセンテ・ソット記念医療センター)
10	Dr. Shari Altamera	St. Paul's Iloilo Hospital (セント・ポールズ病院)
11	Dr. Alvin de Gracia	Department of Science and Technology - Advanced Science and Technology Institute (フィリピン科学技術省 先端科学技術研究所)
12	Dr. Ron Bernal	Department of Health (保健省)



日本側の出席者として、登壇企業4社、「フィリピン調査案件」の企画委員でもある4名の有識者にご参加頂きました。

### 登壇者・登壇企業関係者

No	氏名	所属・役職
1	田村 雄一	国際医療福祉大学三田病院／国際医療福祉大学医学部 教授
2	武智 峰樹	国際医療福祉大学三田病院 研究員
3	加藤 誠人	オムロンヘルスケア株式会社 グローバル営業統括部 グローバル営業企画部 部長
4	島津 尚人	Ubie株式会社(Ubie Singapore)CEO
5	Terence Tan	Ubie株式会社(Ubie Singapore) Medical Director
6	清水 映輔	OUI Inc. Co-Founder / CEO
7	中山 慎太郎	OUI Inc. Vice President of Global Business
8	尾形 優子	メロディ・インターナショナル株式会社 CEO
9	二ノ宮 敬治	メロディ・インターナショナル株式会社 CIO

### 有識者(4名)

No	氏名	所属・役職
1	湯元 昇	国立循環器病研究センター 産学連携コーディネーター
2	坂田 泰史	大阪大学 大学院医学系研究科 教授
3	弓野 大	医療法人社団ゆみの 理事長
4	宮川 一郎	医療法人習志野台整形外科内科 理事長・院長

カンファレンスのオブザーバーとして大使館・関係省庁・関係組織にもご参加頂きました。

協力団体・オブザーバー

No	氏名	所属・役職
1	Dr. Faith M. Reyes	フィリピン基地転換開発公社(BCDA)
2	Dita Angara-Mathay	在京フィリピン共和国大使館
3	堀内 建助	在京フィリピン共和国大使館 投資アドバイザー
4	堀 和一郎	在フィリピン日本国大使館 書記官
5	秀嶋 由理子	経済産業省ヘルスケア産業課 係長
6	神谷 英美	総務省 係長
7	服部 司	株式会社海外交通・都市開発事業支援機構(JOIN) 次長
8	齋藤 慶太	独立行政法人 国際協力機構(JICA)
9	本田 祐子	Medical Excellence JAPAN(MEJ) 課長
10	槇山 愛湖	大阪商工会議所 理事・産業部長
11	鹿妻 洋之	日本医療機器産業連合会 医療ICT推進WG 主査

※上記主席者リストでは内閣官房・九州大学・トーマツは除いて記載しています

# フィリピンのカンファレンスに関して、参加者の一覧は以下の通りです。

## 参考:出席者一覧(スクリーンショット)



フィリピン医療従事者

閉じる 参加者 (78)

	Dani Castro Jr. MD-VSMMC		
	DS DE SILOS, JERIEL R.		
	DC Dee Cee		
	Djoanna Aguirre-Pedro-DE LA SALLE		
	C DOH KMITS Cherrie Esteban		
	Eisuke Shimizu/OUI Inc.		
	H hattori-t		
	HK Hidemi KAMIYA		
	HK Horiuchi Kensuke		
	ICHIRO_MIYAGAWA		
	KH Kazuichiro Hori		

閉じる 参加者 (78)

	Calvin de los Reyes UP Manila		
	CK CAS_Ayaka Kosaka		
	CM CAS_Hirokazu Morita		
	CN CAS_Hiromitsu Negishi		
	CI CAS_Makiko Isozaki		
	CF CAS_Naru Fujimaki		
	CM CAS_Yasuhito Morimoto		
	C CAS_Yoshida		
	CS CAS_Yuki Shono		
	CM Courtney Mathay		
	DY Dai Yumino		

閉じる 参加者 (78)

検索

	SN Sachiyo, Nakamura (自分)		
	FT Facilitator_Tomonari Takeuchi (ホスト)		
	Secretariat (共同ホスト)		
	Nakamura, Sachiyo (通訳者)	あ	
	AN Aoki, Nagisa (通訳者)	あ	
	DT Dr Terence- Ubie		
	( JFMDA) Hiroyuki, Kazuma		
	AH Ana Hilvano-Cabungcal (UP-PGH)		
	ASTI_PH - Alvin de Gracia		
	Ben Valdez - SPMC DAVAO phil		

# フィリピンのカンファレンスに関して、参加者の一覧は以下の通りです。

## 参考: 出席者一覧(スクリーンショット)



閉じる	参加者 (78)	
KS	Keita Saito	
KM	Kii, Megumi	
LR	Leah Rodriguez	
M	makiyama	
MK	Makoto Kato Omron Healthcare	
M	manishino	
MB	Maritess Baloran - Baguio General Ho...	
	Mark Ariston Canete	
MS	Masako Saito	
M	masanishimura	
	MEJ_Yuko HONDA	

閉じる	参加者 (78)	
	OUI Inc./Shintaro	
R	REYESFaithM	
RB	Ron Bernal	
	Sakurai, Osamu	
SS	Secretariat_Kotomi Shimamura	
SA	Shari Altamera - St. Paul's Hospital Il...	
	Shuji Shimizu	
	St.LukesMedCtr_Dr. Jeffrey Domino Ph	
SD	STR Dita Angara Mathay	
TO	takeo okada	
	Takeuchi, Tomonari	

閉じる	参加者 (78)	
MI	Melody i	
MH	meti_yuriko hideshima	
MH	Miho Hayata	
MT	Mineki TAKECHI	
MT	MIS Team - BAGUIO GENERAL HOSPITA...	
M	mkii	
NA	Nagisa Aoki	
NS	Naoto Shimazu	
NY	Noboru YUMOTO (NCVC, Japan)	
	Noh, Duchan	
O	OCCI	



# フィリピンのカンファレンスに関して、参加者の一覧は以下の通りです。

参考:出席者一覧(スクリーンショット)



フィリピン医療従事者

	Tomohiko Moriyama		
	Ueda, Jun		
	Vivencio Jose Villaflor		
	Watanabe, Taro		
	Yasushi Sakata		
	Yhuko Ogata Melody International Ltd.		
	Yuan, Yi		
	Yuan, Yi		
	Yuichi Tamura@IUHW and Cardiointel...		
	Yusuke Kato Omron Healthcare		
	Nakamura (トーマツ/Deloitte)		

	TEMDEC - Kyushu University Hospital		
	TEMDEC mori		
	Tomohiko Moriyama		
	Ueda, Jun		
	Vivencio Jose Villaflor		
	Watanabe, Taro		
	Yasushi Sakata		
	Yhuko Ogata Melody International Ltd.		
	Yuan, Yi		
	Yuan, Yi		
	Yuichi Tamura@IUHW and Cardiointel...		

カンファレンスでは日本側のプレゼンテーションの間にチャット欄にてコメントや質問を募集し、意見交換で登壇企業より回答を行いました。

### チャット欄に寄せられたコメント・質問(1/7)

#### 国際医療福祉大学三田病院への質問

Does Cloud based Monitoring system provide immediate feedback to the doctor that can be used for emergency response?

クラウドベースのモニタリングシステムは、緊急対応が必要な場合、医師への即時フィードバックを提供できるか。



Dr. Jeffrey Domino セントルークス医療センター・医科大学

#### Ubie Inc.への質問

Can Ubie be linked with an already existing EMR of the hospital?

Ubieのシステムは病院の既存のEMRとリンクできるのか。



Dr. Ana Melissa Hilvano-Gabungcal フィリピン大学フィリピン総合病院

Is Ubie Applicable to patients with laboratory and imaging results already, can they upload these results?

Ubieのシステムは、検査結果及び画像を既に持っている患者に適用できるのか。また、患者たちはこれらの結果をアップロードできるのか。



Dr. Jeffrey Domino セントルークス医療センター・医科大学

カンファレンスでは日本側のプレゼンテーションの間にチャット欄にてコメントや質問を募集し、意見交換で登壇企業より回答を行いました。

## チャット欄に寄せられたコメント・質問(2/7)

### Ubie Inc.への質問



For Ubie, how is the payment option? For professional fee.  
Ubieの支払いオプション(専門家の費用等)はどのようになっているのか。

Dr. D. Pedro (デ・ラ・サール大学大学医療センター)



Is there a feature in your product regarding insurance, billing and payment?  
保険の請求、支払い等に関する機能は製品にあるのか。

Dr. Jeriel de Silos (デ・ラ・サール大学大学医療センター)

### オムロンヘルスケア株式会社への質問



For Omron, is the data received from patient in realtime? Are other ICT devices not from OMRON compatible with the app?  
患者からリアルタイムでデータを受信できるのか。また、オムロン以外のICT機器との適合性はどうか。

Dr. Jeffrey Domino (セントルークス医療センター・医科大学)

カンファレンスでは日本側のプレゼンテーションの間にチャット欄にてコメントや質問を募集し、意見交換で登壇企業より回答を行いました。

### チャット欄に寄せられたコメント・質問(3/7)

#### オムロンヘルスケア株式会社への質問



For OMRON, the use of your device is limited only to those living in condominiums? Is there a way to translate its use into small communities?  
デバイスに関しては、集合住宅の住民のみ利用できるのか。また、小さなコミュニティにおいてデバイスの利用を可能にする方法はあるのか。

Dr. Ana Melissa Hilvano-Cabungcal フィリピン大学フィリピン総合病院



I wonder if the app is more for the SMART CITY which is envisioned in Clark.  
このアプリはクラークで想定されているスマートシティ向けのものなのか。

Dr. Calvin S. de los Reyes フィリピン大学

カンファレンスでは日本側のプレゼンテーションの間にチャット欄にてコメントや質問を募集し、意見交換で登壇企業より回答を行いました。

## チャット欄に寄せられたコメント・質問(4/7)

### メロディ・インターナショナル株式会社への質問

With such technologies, a concern is the coverage of the application upon implementation, as well as its sustainability once left in the care of local health agencies. The application may not be accessible to areas with poor signal coverage, especially in geographically isolated and disadvantaged areas. I wonder how Melody i accomodate low-tech areas. Is there an “Offline mode” for the application?

この技術を導入した場合、カバレッジの問題が懸念点として挙げられる。実装時のアプリケーションの適用範囲(周波数のカバレッジ)と、地域の保健機関の管理下に置かれた後の持続利用の可能性が懸念される。特に、地理的に孤立した、ローテク(信号・周波数のカバレッジが不十分)な地域では、アプリを利用できない場合があると思う。こうしたローテクな地域において、Melody iがどのように対応していくのか。アプリに「オフラインモード」はあるのか？



Dr. Calvin S. de los Reyes フィリピン大学



Does the fetal monitor have AI, that interprets the information and alerts mothers to seek immediate consult?

胎児モニターには、AIが情報を解釈し、母親に診断を促すようなアラート機能があるのか。

Dr. Ana Melissa Hilvano-Cabungcal フィリピン大学フィリピン総合病院

カンファレンスでは日本側のプレゼンテーションの間にチャット欄にてコメントや質問を募集し、意見交換で登壇企業より回答を行いました。

## チャット欄に寄せられたコメント・質問(5/7)

### OUI Inc.への質問



I hope smart eye camera is affordable considering that most of our people belongs to middle income or sometimes no income at all.  
Smart Eye Cameraを手ごろな価格で提供することは可能なのか。フィリピンでは人々の所得水準が高くないため、安価なサービスの提供が望ましい。

Dr. Ron Bernal



Question for OUI Inc. : (1)Does it work in the absence of internet? (2)Since it can do geotagging, can it be used for mapping cataract cases in a large area? (3)Do you have similar products or can your product be repurposed to do other stuff like diagnosing dermatologic cases? Thank you.

①インターネットがなくても使えるのか、②白内障の症例をマッピングするために使用できるのか？ ③同じような他社の製品があるのか。もうしくは、貴社の製品の使用目的を変えることができるのか。

Dr. Jeriel de Silos デ・ラ・サール大学大学医療センター



I agree with the comments on Smart eye, I hope our Ophthalmologist will appreciate to use this as well.  
Smart Eye Cameraに関するコメントに同意する。フィリピンの眼科医もこのデバイスを利用することを期待している。

Dr. Jeffrey Domino セントルークス医療センター・医科大学



# 遠隔医療の現状や課題についての意見交換では、下記のコメントがフィリピンの参加者から投稿されました。

## チャット欄に寄せられたコメント・質問(6/7)

### 遠隔医療の現状や課題について

I have a question for our colleagues in Philippines; Are there any guidelines and protocols you have to adhere to when providing telemedicine?

フィリピンの先生方に質問したい。遠隔医療サービスを提供する際に遵守しなければならないガイドラインやプロトコルなどはあるのか。また、どのような法規制があるのか。



Ubie株式会社 Tan様

There is a telehealth framework but it is not yet implemented at the national level.

遠隔医療関連の枠組みはあるが、国レベルでの実施がまだ行われていない。



Dr. Jeriel de Silos デ・ラ・サール大学大学医療センター

Perhaps this could help:

<https://www.philippinemedicalassociation.org/wp-content/uploads/2020/05/1-Telemedicine-for-Health-Professionals.pdf>

リンクを参照して頂ければと思う。



Dr. Calvin S. de los Reyes フィリピン大学

# 遠隔医療の現状や課題についての意見交換では、下記のコメントがフィリピンの参加者から投稿されました。

## チャット欄に寄せられたコメント・質問(7/7)

### 遠隔医療の現状や課題について



I have a question for participants from the Philippines. What kind of telemedicine is actually practiced in the Philippines? Are there any services already in use in the Philippines such as those introduced at this conference?

フィリピン側の参加者に質問したい。フィリピンでは、実際にどのような遠隔医療サービスが行われているのか。また、今回の会議で紹介されたような、既にフィリピンで利用されているサービスはあるのか。

国立循環器病研究センター 湯元先生



In the south telemedicine in southern Philippines medical center 1. Tele radiology 2. Tele dermatology/by tele presence 3. We started tele emergency especially in Arrhythmias but still in the under observation.

フィリピン南部医療センターでは以下の取組を実施中である。1.遠隔放射線学、2.遠隔皮膚科(テレプレゼンスによる)、3.不整脈等に対するTele-Emergency(遠隔の緊急対応)。

Dr. Benedict Valdez フィリピン南部医療センター

### 今後の協力の進め方について



How do we move forward in coordinating collaborations through AHWIN?

アジア健康構想を通じて今後どのように協力していくのか。

Dr. Ana Melissa Hilvano-Cabungcal フィリピン大学フィリピン総合病院

カンファレンスの最後にはWeb形式のアンケートを実施し、カンファレンスの感想や個別フォローアップの希望等の情報を収集しました。

アンケート回答者:フィリピン

12名中10名が回答

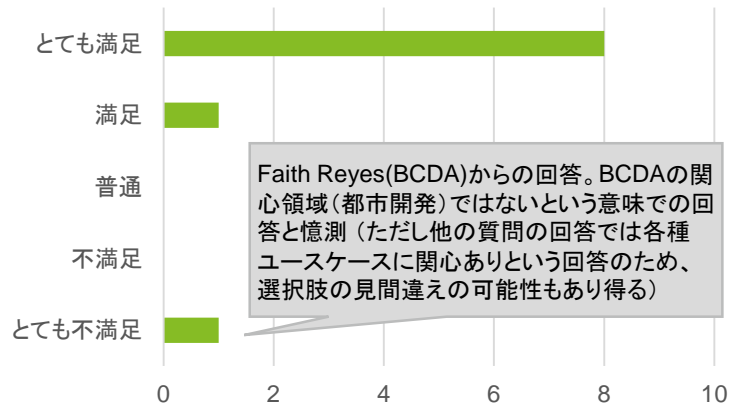
No	氏名	所属
1	Calvin de los Reyes	University of the Philippines - Manila
2	Benedict valdez	Southern Philippines Medical Center
3	Jeriel De Silos	DLSMHSI - Philippines
4	Jeffrey Domino	St. Luke's Medical Center and College of Medicine
5	Faith Reyes	フィリピン基地転換開発公社(BCDA)
6	Danilo S. Castro Jr.	Vicente Sotto Memorial Medical Center PH
7	Maritess Baloran	Baguio General Hospital and Medical Center
8	Djhoanna Aguirre-Pedro	De La Salle University Medical Center
9	Alvin M. de Gracia	Department of Science and Technology - Advanced Science and Technology Institute
10	Ana Melissa Hilvano-Cabubgcal	University of the Philippines College of Medicine- Philippine General Hospital

# アンケートを分析した結果、フィリピン側、日本側いずれも一定の満足度を得ることが出来ました。

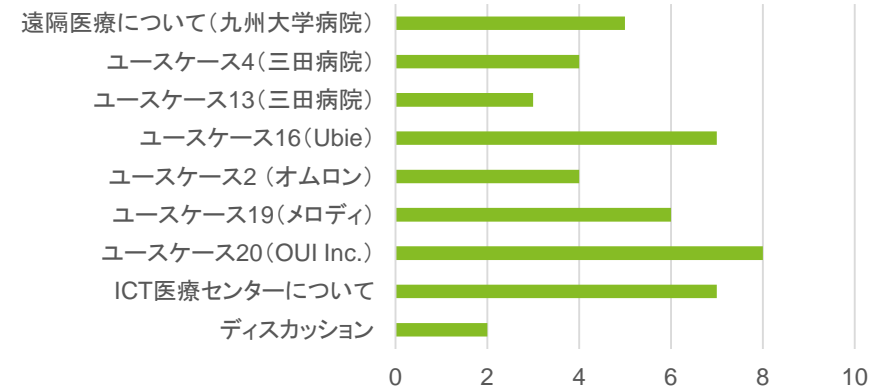
## アンケート結果(1/5)

n=10: フィリピン側(10名)

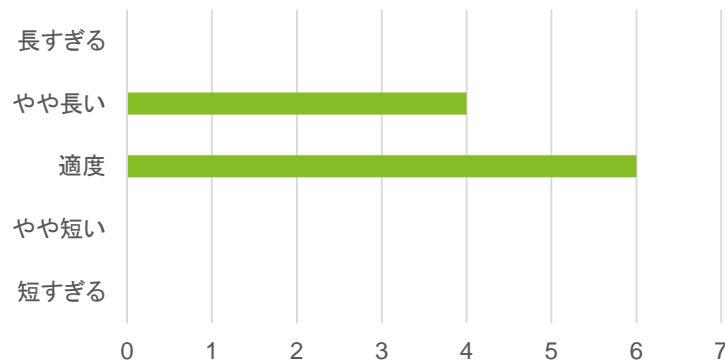
### Q.本日の国際カンファレンスの満足度を教えてください



### Q.最も満足度が高かったコンテンツを3つ教えてください



### Q.時間の長さは適切でしたか

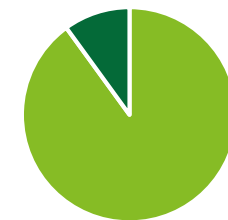


### Q.ユースケースの登壇者あるいは登壇者の所属する企業、組織からの個別連絡を希望しますか？

→ 全員Yesと回答



■ Yes ■ No



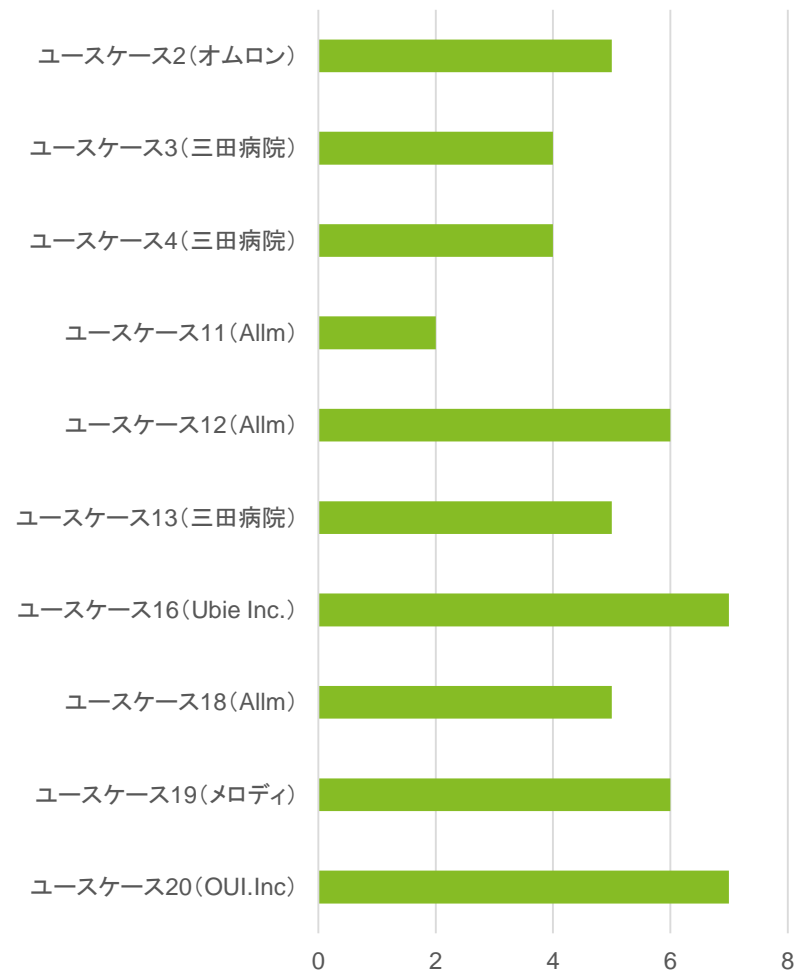
■ Yes ■ No

# 「詳細情報を知りたいユースケース」に関する質問では下記の回答を得ました。カンファレンス後には企業より個別フォローアップ連絡が実施されました。

## アンケート結果 (2/5)

Q. 今後、もっと情報を知りたいユースケースがあれば教えてください

No	ユースケース	当該ユースケースに関心のある参加者
2	Obtaining vital data on healthy individuals in collective housing areas	Calvin de los Reyes, Benedict valdez, Jeriel De Silos, Faith Reyes, Danilo S. Castro Jr.
3	Home care management support for patients with severe heart disease	Benedict valdez, Dr Jeffrey Domino, Danilo S. Castro Jr., Ana Melissa Hilvano-Cabubgcal
4	AI support for diagnosing arrhythmias	Benedict valdez, Jeriel De Silos, Danilo S. Castro Jr., Ana Melissa Hilvano-Cabubgcal
11	Sharing of hospital acceptance of COVID-19	Benedict valdez, Danilo S. Castro Jr.
12	Continuous management of COVID-19 patients and accumulation of information	Benedict valdez, Jeriel De Silos, Dr Jeffrey Domino, Danilo S. Castro Jr., Djhoanna Aguirre-Pedro, Ana Melissa Hilvano-Cabubgcal
13	Treatment of mild COVID-19 patients using AI remote monitoring	Benedict valdez, Dr Jeffrey Domino, Faith Reyes, Danilo S. Castro Jr., Djhoanna Aguirre-Pedro
16	Pre-outpatient interviews at hospitals and homes utilizing AI	Benedict valdez, Dr Jeffrey Domino, Faith Reyes, Danilo S. Castro Jr., Maritess Baloran, Djhoanna Aguirre-Pedro, Ana Melissa Hilvano-Cabubgcal
18	Regional medical cooperation through the medical ICT system	Calvin de los Reyes, Benedict valdez, Jeriel De Silos, Danilo S. Castro Jr., Maritess Baloran
19	Remote comprehensive support for pregnant women	Calvin de los Reyes, Benedict valdez, Jeriel De Silos, Danilo S. Castro Jr., Maritess Baloran, Ana Melissa Hilvano-Cabubgcal
20	Remote diagnosis of ophthalmic diseases using Smart Eye Camera and smartphones	Benedict valdez, Jeriel De Silos, Jeffrey Domino, Danilo S. Castro Jr., Maritess Baloran, Alvin M. de Gracia, Ana Melissa Hilvano-Cabubgcal

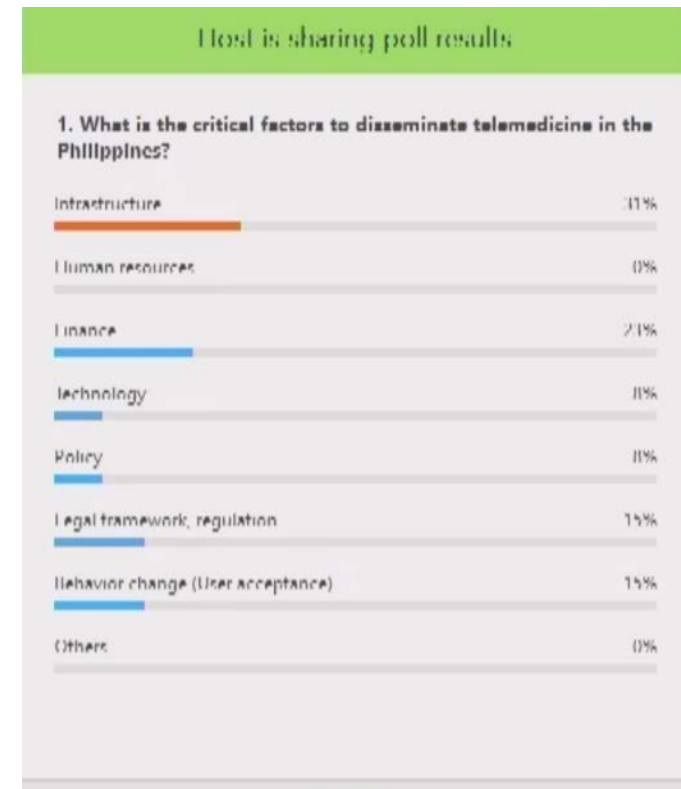
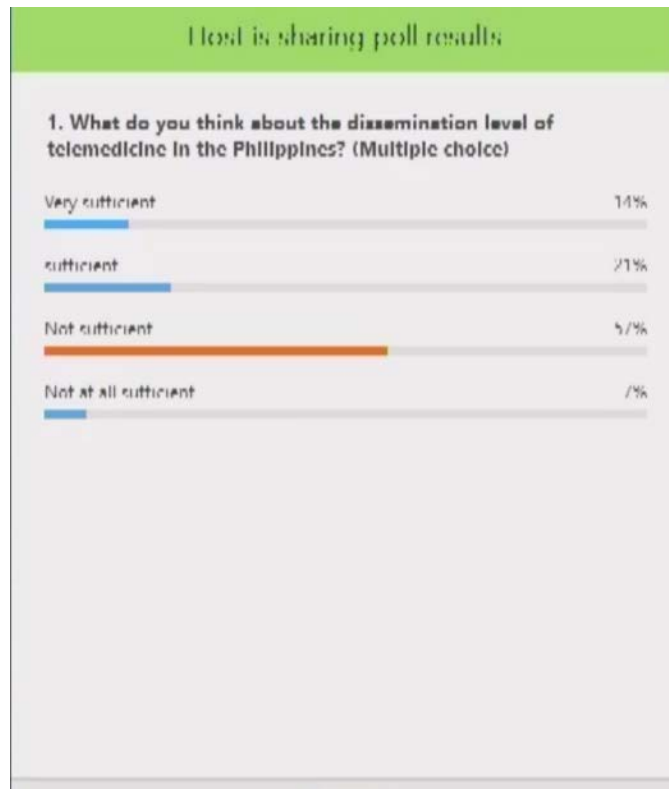


# フィリピン側参加者からの意見収集のため、アンケートに加えてZoomの投票機能を活用しました。

## アンケート結果(3/5)

Telemedicine普及度合いに係る質問回答は、Very sufficient 14%, Sufficient 21%, Not sufficient 57%, Not at all 7%となり、半数以上の参加者は不十分と感じているという結果になりました

遠隔医療の普及に向けた重要ファクターについての質問については、Infrastructure、Finance、Legal Framework/regulation、Behavior change (User acceptance)に票が集まった一方、Human Resourceと回答した参加者は一人もいませんでした

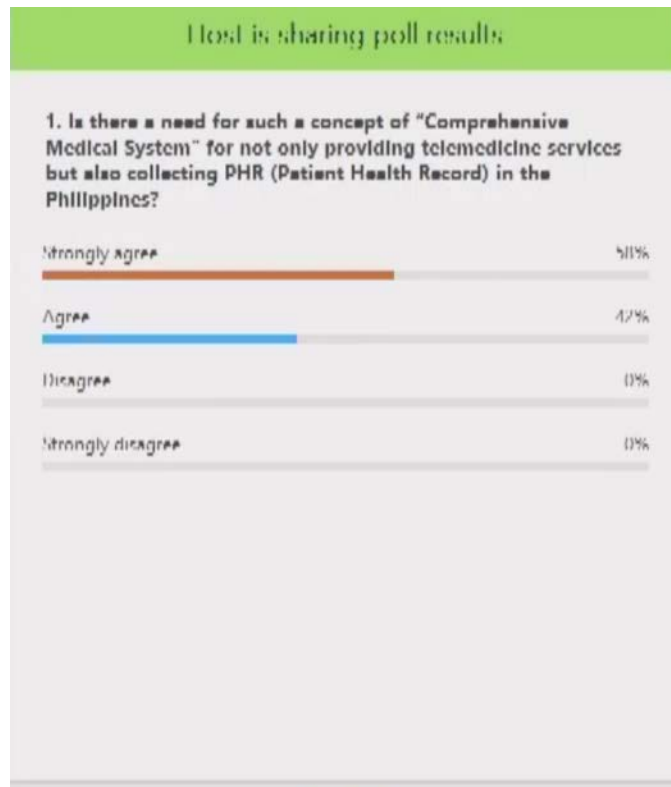




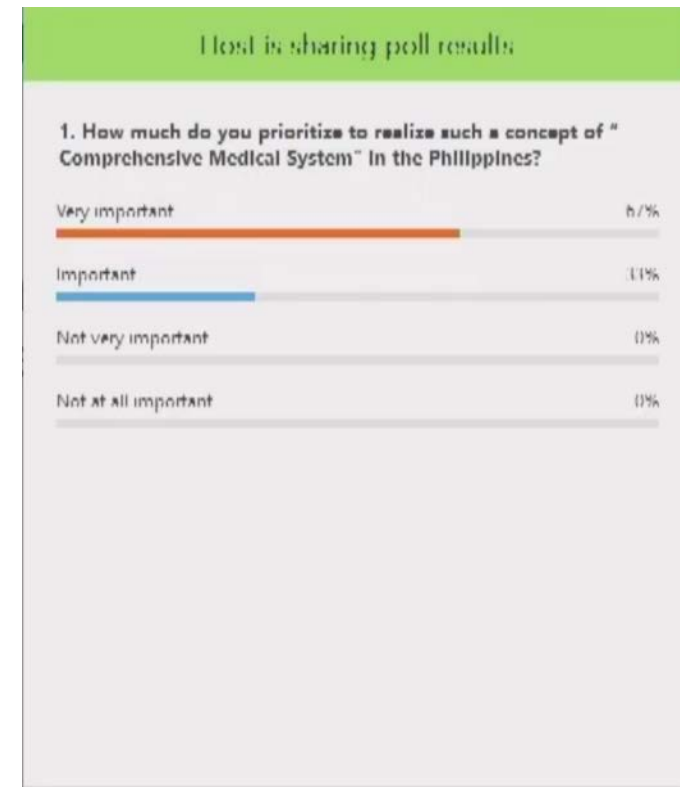
# ICT医療センターのコンセプトについてはフィリピン側参加者から高い関心が寄せられました。

## アンケート結果(4/5)

ICT医療センターのコンセプトについてはフィリピン側参加者全員が、そのニーズを感じるとの回答結果になりました (Strongly agree 58%, Agree 42%)



ICT医療センターに係るニーズの優先度を質問したところ、フィリピン側参加者の多くが優先度は高いと感じているとの結果になりました (Very important 67%, Important 33%)



# フィリピン側参加者から、今後の連携や協力の促進を希望する声が複数挙げられました。

## アンケート結果 (5/5)

Q.「今回のカンファレンスに対する感想や改善点、今後取り扱ってほしいテーマなどあれば、教えてください」への回答

I look forward to the next one.  
(Dr. Calvin de los Reyes, University of the Philippines)

Dr. Calvinからは別途メールにて、RxBox詳細を知る医師の連絡先の共有がありました

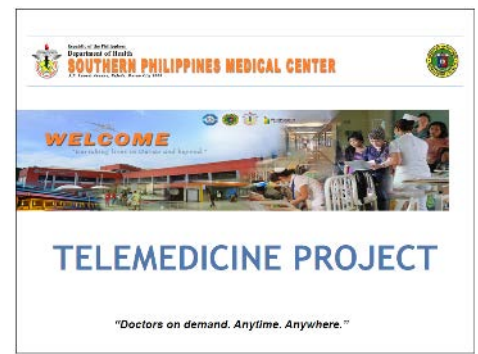
Better to include the head of our academic/medical institution during the conference since all projects are ideal/relevant in our current situation  
(Dr. Djhoanna Aguirre-Pedro, De La Salle University Medical Center)

**【Dr. Calvinからのメール】**  
Dr. Ana (UP-PGH) and I were thinking, should you need better (in-depth) information on the RxBox, we should refer you to her colleagues from the National Institutes of Health (<https://nih.upm.edu.ph/institute/national-telehealth-center>), Dr. Dr. Portia Grace Fernandez-Marcelo. She is the director of the UP-NIH National Telehealth Center.

We will actually show also our experience thru a presentation (英語に誤記あり)  
(Dr. Benedict valdez, Southern Philippines Medical Center)

Dr. Benedictからは別途メールにて、Southern Philippines medical centerが実施する遠隔医療プロジェクトの概要プレゼン資料が共有されました

More communication  
(Dr Jeffrey Domino, St. Luke's Medical Center and College of Medicine)



**【Dr. Benedictからのメール】**  
Please tell the stakeholders we can do more with telemedicine and more meetings. And if covid decrease or normal already we can visit Japan to see and share and witness what you do  
Thank you

Great session with much learning  
(Dr. Danilo S. Castro Jr., Vicente Sotto Memorial Medical Center PH)



## 5. インド



3月17日(水) 13:30-16:00(日本時間) 10:00-12:30(現地時間)

# インドのカンファレンスでは3部制で、ユースケースの発表・意見交換を実施しました。

## プログラム概要

		Part I	
①	Opening Speech & Purpose of the Conference (Japan's Cabinet Secretariat)	 13:30-13:38	 10:00-10:08
②	Welcome to Digital Health (TEMDEC)	13:38-13:43	10:08-10:13
③	Introduction of the Use-cases ① (Guest Speaker)	13:43-14:18	10:13-10:48
Break time (5 minutes)			
		Part II	
④	Q&A session / Discussion ①	14:23-13:33	10:53-11:03
⑤	Introduction of the Use-cases ② (Guest Speaker)	14:33-15:05	11:03-11:35
Break time (5 minutes)			
		Part III	
⑥	Q&A session / Discussion ②	15:10-15:40	11:40-12:10
⑦	Wrap-up Comment	15:40-15:50	12:10-12:20
⑧	Online Questionnaire	15:50-15:55	12:20-12:25
⑨	Closing Speech (TEMDEC)	15:55-16:00	12:25-12:30

インドでは4社が発表を行い、2時間半のカンファレンスを実施しました。当日のタイムテーブルは以下の通りです。

## タイムテーブル

時間			プログラム	対応	備考	Part I
日本	インド	所要時間				
13:30~13:32	10:00~10:02	2分	進行上の留意点説明	司会	✓ 通訳機能等について	
13:32~13:38	10:02~10:08	6分	挨拶・開催の趣旨説明	内閣官房	✓ 開催の挨拶 ✓ 内閣官房より国際カンファレンス開催における背景について	
13:38~13:43	10:08~10:13	5分	ICTを活用した遠隔医療の在り方	九州大学病院	✓ ユースケースの紹介の前にICT技術等を活用した遠隔医療への期待値や九大の活動について ✓ 参加者の簡易紹介	
13:43~13:48	10:13~10:18	5分	ユースケースリスト概要説明	ファシリテーター	✓ ユースケースリストの概要説明 ✓ コメント書込み依頼をアナウンス	
13:48~14:03	10:18~10:33	15分	登壇者①プレゼンテーション	株式会社アルム	✓ ユースケースの紹介	
14:03~14:18	10:33~10:48	15分	登壇者②プレゼンテーション	Ubie株式会社	✓ ユースケースの紹介	
14:18~14:23	10:48~10:53	5分	休憩およびコメント書込み	司会	✓ コメント書込みを依頼	Part II
14:23~14:33	10:53~11:03	10分	意見伺いタイム①	ファシリテーター	✓ プレゼン①~②の質疑応答	
14:33~14:48	11:03~11:18	15分	登壇者③プレゼンテーション	メロディ・インターナショナル株式会社	✓ ユースケースの紹介	
14:48~15:03	11:18~11:33	15分	登壇者④プレゼンテーション	OUI Inc.	✓ ユースケースの紹介	
15:03~15:05	11:33~11:35	2分	プレゼン・登壇者交代のバッファー			
15:05~15:10	11:35~11:40	5分	休憩およびコメント書込み	—	✓ コメント書込みを依頼	Part III
15:10~15:40	11:40~12:10	30分	意見伺いタイム② ①ユースケースについて ②遠隔医療の現状や課題について	ファシリテーター	✓ チャットにて募集した質問に関して登壇者が回答 ✓ Zoom投票機能を活用	
15:40~15:50	12:10~12:20	10分	ラップアップ・コメント	企画委員	✓ 意見交換の振返り・企画委員からのコメント	
15:50~15:55	12:20~12:25	5分	ネットアンケート	司会進行	✓ ネットアンケートの記入を依頼	
15:55~16:00	12:25~12:30	5分	挨拶／クロージング	九州大学病院	✓ 閉会の挨拶	



カンファレンスではユースケースに関するインド医療従事者の意見聴取や、遠隔医療に関する現状について活発に議論を行う事ができました。

### カンファレンスの実施様子(集合写真)





カンファレンスは主催者や事務局の代表者が都内の拠点会場に集まり、感染対策に留意しながら実施しました。

カンファレンスの実施様子(拠点会場写真)





# インドからは6機関・14名の医療従事者の方にカンファレンスにご参加頂きました。

## インド:現地機関の出席者

No	氏名	所属
1	Dr. S K. Mishra	Sanjay Gandhi Post Graduate Institute of Medical Sciences (SGPGIMS) (サンジャイガンジー大学院)
2	Mr. Repu Daman Chand	
3	Dr. Meenu Singh	Postgraduate Institute of Medical Education & Research (PGIMER) (大学院医学教育研究所)
4	Dr. Manvi Singh	
5	Dr. Amit Agarwal	
6	Dr. Anil Chauhan	
7	Dr. Kalay Arasan	Jawaharlal Institute of Postgraduate Medical Education and Research (JIPMER) (ジャワハルラル大学院)
8	Dr. Ravi Kumar Chittoria	
9	Mr. Mohamed Ishaq	
10	Ms. Kavitha	
11	Mr. Ramachandran	Medicover Hospitals (メディカバー病院)
12	Dr. Vijay Pal Singh	
13	Dr. Rajnish kishore	Institute of Liver and Biliary Sciences (ILBS) (肝臓胆管科学センター)
14	Dr. Sheila John	Sankara Nethralaya Hospital (シャンカラ・ネトララヤ眼科病院)

日本側の出席者として、登壇企業4社、「フィリピン調査案件」の企画委員でもある4名の有識者にご参加頂きました。

### 登壇者・登壇企業関係者

No	氏名	所属・役職
1	久間木 裕介	株式会社アルム チームプラットフォーム部
2	島津 尚人	Ubie株式会社 (Ubie Singapore) CEO
3	Terence Tan	Ubie株式会社 (Ubie Singapore) Medical Director
4	清水 映輔	OUI Inc. Co-Founder / CEO
5	中山 慎太郎	OUI Inc. Vice President of Global Business
6	尾形 優子	メロディ・インターナショナル株式会社 CEO
7	二ノ宮 敬治	メロディ・インターナショナル株式会社 CIO

### 有識者

No	氏名	所属・役職
1	湯元 昇	国立循環器病研究センター 産学連携コーディネーター
2	坂田 泰史	大阪大学 大学院医学系研究科 教授
3	弓野 大	医療法人社団ゆみの 理事長
4	宮川 一郎	医療法人習志野台整形外科内科 理事長・院長

カンファレンスのオブザーバーとして大使館・関係省庁・関係組織にもご参加頂きました。

協力団体・オブザーバー

No	氏名	所属・役職
1	Dr. Usha Dixit	在京インド大使館 カウンセラー(S&T)
2	秀嶋 由理子	経済産業省ヘルスケア産業課 係長
3	石川 史明	厚生労働省医政局総務課
4	塚本 啓貴	外務省南西アジア課 研究調査員
5	篠原 悠子	独立行政法人 国際協力機構(JICA) 南アジア部 職員
6	佐々木 ひらり	独立行政法人 国際協力機構(JICA) 南アジア部 職員
7	肝付 直也	独立行政法人 国際協力機構(JICA) 南アジア部 職員
8	加藤 真一郎	独立行政法人 国際協力機構(JICA) 南アジア部 職員
9	阿部 康昭	独立行政法人 国際協力機構(JICA) 人間開発部 職員
10	本田 祐子	Medical Excellence JAPAN(MEJ) 課長

# インドのカンファレンスに関して、参加者の一覧は以下の通りです。

## 参考:出席者一覧(スクリーンショット)

閉じる	参加者 (64)	
HS	Hirari Sasaki(JICA)	
	Ichiro Miyagawa	
	C JIPMER Puducherry	
	Kii, Megumi	
K	KUH_mori	
K	kuricom@tem.med.kyushu-u.ac.jp	
M	masanishimura	
	Meenu Singh	
	Megumi Kii	
MH	MEJ_Yuko Honda	
MI	Melody i	
MH	meti_yuriko hideshow	

閉じる	参加者 (64)	
Q 検索		
SN	Sachiyo, Nakamura (自分)	
FT	Facilitator_Tomonari Takeuchi (ホスト)	
	Secretariat (共同ホスト)	
	Secretariat_Takeuchi, T... (共同ホスト)	
	Yuan, Yi (共同ホスト)	
	Nakamura, Sachiyo (通訳者)	
AN	Aoki, Nagisa (とお (通訳者))	
K	Kumaki_Allm	
CK	cas_ayaka kosaka	
CK	CAS_Ayaka Kosaka	

閉じる	参加者 (64)	
	インド医療従事者	
CK	CAS_Ayaka Kosaka	
CM	CAS_Hirokazu Morita	
CN	CAS_Hiromitsu Negishi	
CN	CAS_Hiromitsu Negishi	
CF	CAS_Naru Fujimaki	
CM	CAS_Yasuhito Morimoto	
CY	CAS_Yu Yoshida	
CS	CAS_Yuki Shono	
DY	Dai Yumino	
		Dr Ravi Kumar and Kavitha, JIPMER P...
		DS Dr Sheila John

# インドのカンファレンスに関して、参加者の一覧は以下の通りです。

## 参考:出席者一覧(スクリーンショット)



インド医療従事者



閉じる	参加者 (64)	
T	tsukamoto	
UD	Usha Dixit Embassy of India	
VP	Vijay Pal Singh	
YA	Yasuaki Abe	
	Yasushi Sakata	
YO	Yhuko Ogata Melodyi	
YS	Yuko Shinohara	
河	河田	
苑	苑 意	
西	西野正昭	
青	青木 (トーマツ)	
齋	齋藤 昌子	

閉じる	参加者 (64)	
MI	MHLW Ishikawa	
NS	Naoto Shimazu	
NK	Naoya Kimotsuki	
NY	Noboru YUMOTO (NCVC, Japan)	
O	osakurai	
PC	PGIMER, Chandigarh	
PD	Prof Dr Ravi Kumar Chittoria	
PS	Prof SK MISHRA	
R	Rajnish	
RD	Repu Daman	
	Sakurai, Osamu	

SN	Sankara Nethralaya_Chennai	
SS	Secretariat_Kotomi Shimamura	
SK	Shinichiro Kato(JICA)	
	Shintaro/OUI Inc.	
	Shuji Shimizu	
TI	Telemedicine, IMS, BHU, Varanasi, In...	
T	TEMDEC 1	
	Tomohiko Moriyama	
T	tsukamoto	

カンファレンスでは日本側のプレゼンテーションの間にチャット欄にてコメントや質問を募集し、意見交換で登壇企業より回答を行いました。

## チャット欄に寄せられたコメント・質問(1/4)

### 株式会社アルムへの質問



Join seems a great solution for Covid. Can it be used on mobile network without WIFI. What band width is required? We need devices to pick up clinical signs from remote end.

JOINはCOVID-19向けの素晴らしいソリューションになる気がする。Wi-Fiに接続できなくても使用できるのか。また、必要なネットワーク帯域を教えてください。リモートエンドから臨床兆候をピックアップするためのデバイスが必要である。

Dr. Meenu Singh 大学院医学教育研究所(PGIMER)



Do you face any legal issues in cross boarder teleconsultation using join. Any prior clearance required?

JOINを使用し国を跨いで遠隔医療を行う際に、法的問題に直面したことはあるか。クリアすべき法的要件はあるのか。

Dr. Kalay Arasan ジャワハルラル大学院(JIPMER)

カンファレンスでは日本側のプレゼンテーションの間にチャット欄にてコメントや質問を募集し、意見交換で登壇企業より回答を行いました。

## チャット欄に寄せられたコメント・質問(2/4)

### Ubie Inc.への質問



Do you have AI solutions using Indian Medical Data? Do you want to build some?

インドの医療データを使用した、あるいはインドの疾患状況に適したAIソリューションはあるか。そういったものを開発する予定はあるか。

What level of education will be required to fill up the pre form?

ユーザーに必要な教育レベルについて教えて頂ければと思う。

Dr. Meenu Singh 大学院医学教育研究所(PGIMER)



What disease conditions are covered in your AI solutions. Is it based on Japanese database?

AIソリューションでカバーされている病状は何か。日本のデータベースに基づいているのか。

Is it voice enabled? So that illiterate patients can use it.

音声対応は可能なのか(非識字の患者もそれを使用できるように)。

ジャワハルラル大学院(JIPMER) Puducherry



As we have heard both presenters (JOIN & Team). Most of the solutions are based on data sets of Population of Japan. The same template may not function in India. Can these solutions can be modified based on a region?

ほとんどのソリューションは、日本の人口のデータセットに基づいている。同じテンプレートがインドでは機能しない可能性がある。これらのソリューションは、地域に応じて変更できるのか。

Dr. Rajnish kishore 肝臓胆管科学センター



カンファレンスでは日本側のプレゼンテーションの間にチャット欄にてコメントや質問を募集し、意見交換で登壇企業より回答を行いました。

### チャット欄に寄せられたコメント・質問(3/4)

#### メロディ・インターナショナル株式会社への質問



Very useful device. What is the cost? Is it battery operated? Can it also transmit heart sounds and fetal movements? Is the transmission through Bluetooth enabled devices?

非常に便利なデバイスだと思う。コストはどのぐらいなのか。電池を使うか。心音や胎児の動きも送信できるのか。Bluetooth対応デバイスを介して送信するのか。

Dr. Meenu Singh 大学院医学教育研究所(PGIMER)



Any country specific approval for the device required?

デバイスに承認を与えた国を教えてください。

ジャワハルラル大学院(JIPMER) Puducherry



Fetal monitor iCTG. Currently, it is certified by PMDA in Japan and FDA in Thailand. It is also ISO13485 certified. Currently preparing for CE marking.

胎児モニターiCTGに関しては、現在、日本ではPMDA、タイではFDAの認証を受けている。また、ISO13485認証も取得しており、現在CEマーキングの準備をしている。

尾形様 メロディ・インターナショナル株式会社

カンファレンスでは日本側のプレゼンテーションの間にチャット欄にてコメントや質問を募集し、意見交換で登壇企業より回答を行いました。

## チャット欄に寄せられたコメント・質問(4/4)

### OUI Inc.への質問



Smartphone specifications with respect to the optics required to connect the device.  
デバイスの接続に必要なスマートフォンの仕様について教えて頂きたい。

ジャワハルラル大学院(JIPMER) Puducherry



What are the steps taken to ensure Patient Data protection/privacy? Who will the patient information be shared with, apart from the doctor and the software developers?

患者データの保護/プライバシーを確保するために取られる手順は何か。医師とソフトウェア開発者を除いて、患者情報は誰と共有されるのか。

大学院医学教育研究所(PGIMER) Chandigarh



Can the device be attached to ophthalmoscope? Or otoscope?

デバイスを検眼鏡、あるいは耳鏡に取り付けることができるのか。

Cost please. We can validate in India. Will be good for health and wellness centers.  
費用を教えてください。インドで検証できる。健康とウェルネスセンターに適していると思う。

Dr. Meenu Singh 大学院医学教育研究所(PGIMER)

カンファレンスの最後にはWeb形式のアンケートを実施し、カンファレンスの感想や個別フォローアップの希望等の情報を収集しました。

アンケート回答者:インド

14名中8名が回答

No	氏名	所属
1	Dr.Rajnish Kishore	Institute of Liver and Biliary Sciences (ILBS)
2	Dr. Kalayarasan R	Department of Surgical Gastroenterology, Jawaharlal Institute of Post Graduate Medical Education and Research (JIPMER)
3	Prof Dr Ravi Kumar Chittoria	Registrar (Academic) and Head of IT Wing & Telemedicine, Jawaharlal Institute of Postgraduate Medical Education and Research (JIPMER)
4	Dr. Meenu Singh	Postgraduate Institute of Medical Education & Research (PGIMER)
5	Dr. Manvi Singh	Postgraduate Institute of Medical Education & Research (PGIMER)
6	Dr. Amit Agarwal	Postgraduate Institute of Medical Education & Research (PGIMER)
7	Dr. Anil Chauhan	Dept of Telemedicine, Postgraduate Institute of Medical Education & Research (PGIMER)
8	Dr. Sheila John	Sankara Nethralaya Hospital

日本

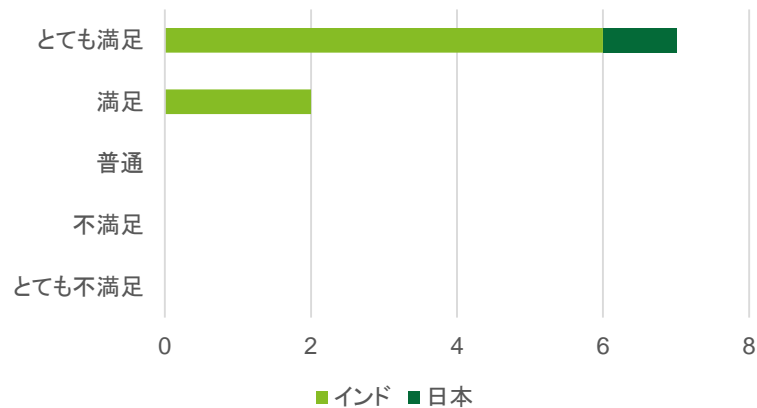
No	氏名	所属
1	久間木 裕介	株式会社アルム チームプラットフォーム部

# アンケートを分析した結果、インド側、日本側いずれも一定の満足度を得ることが出来ました。

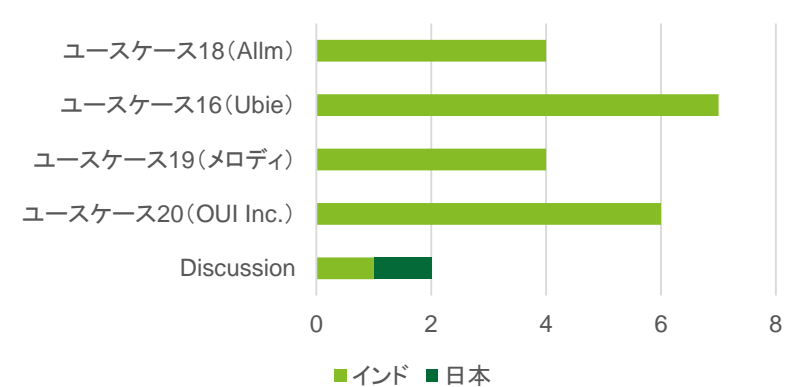
n=9: インド側(8名)、日本側(1名)

## アンケート結果(1/4)

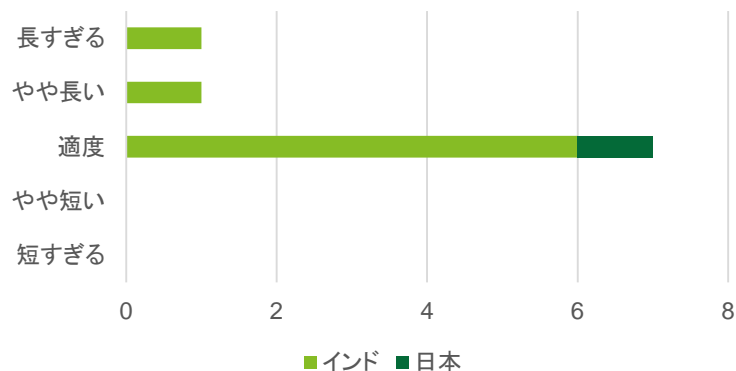
Q.本日の国際カンファレンスの満足度を教えてください



Q.最も満足度が高かったコンテンツを3つ教えてください



Q.時間の長さは適切でしたか



Q.ユースケースの登壇者あるいは登壇者の所属する企業、組織からの個別連絡を希望しますか？

→ 全員Yesと回答

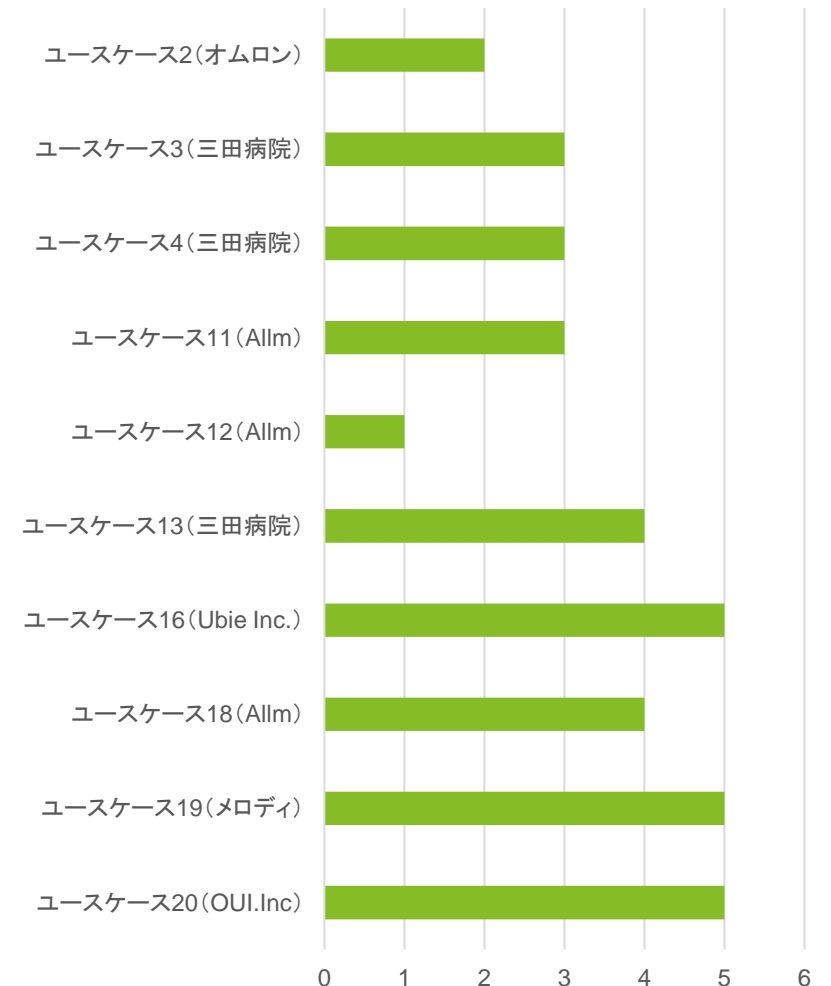


# 「詳細情報を知りたいユースケース」に関する質問では下記の回答を得ました。カンファレンス後には企業より個別フォローアップ連絡が実施されました。

## アンケート結果(2/4)

Q. 今後、もっと情報を知りたいユースケースがあれば教えてください

No	ユースケース	当該ユースケースに関心のある参加者
2	Obtaining vital data on healthy individuals in collective housing areas	Ravi Kumar Chittoria, Shela John
3	Home care management support for patients with severe heart disease	Rajnish kishore, Ravi Kumar Chittoria, Amit Agarwal
4	AI support for diagnosing arrhythmias	Ravi Kumar Chittoria, Shela John, Anil Chauhan
11	Sharing of hospital acceptance of COVID-19	Ravi Kumar Chittoria, Shela John, Amit Agarwal
12	Continuous management of COVID-19 patients and accumulation of information	Ravi Kumar Chittoria
13	Treatment of mild COVID-19 patients using AI remote monitoring	Ravi Kumar Chittoria, Meenu Singh, Shela John, Anil Chauhan
16	Pre-outpatient interviews at hospitals and homes utilizing AI	Kalayarasan R, Ravi Kumar Chittoria, Manvi Singh, Shela John, Amit Agarwal
18	Regional medical cooperation through the medical ICT system	Kalayarasan R, Ravi Kumar Chittoria, Shela John, Anil Chauhan
19	Remote comprehensive support for pregnant women	Kalayarasan R, Ravi Kumar Chittoria, Meenu Singh, Manvi Singh, Anil Chauhan
20	Remote diagnosis of ophthalmic diseases using Smart Eye Camera and smartphones	Kalayarasan R, Ravi Kumar Chittoria, Meenu Singh, Shela John, Anil Chauhan

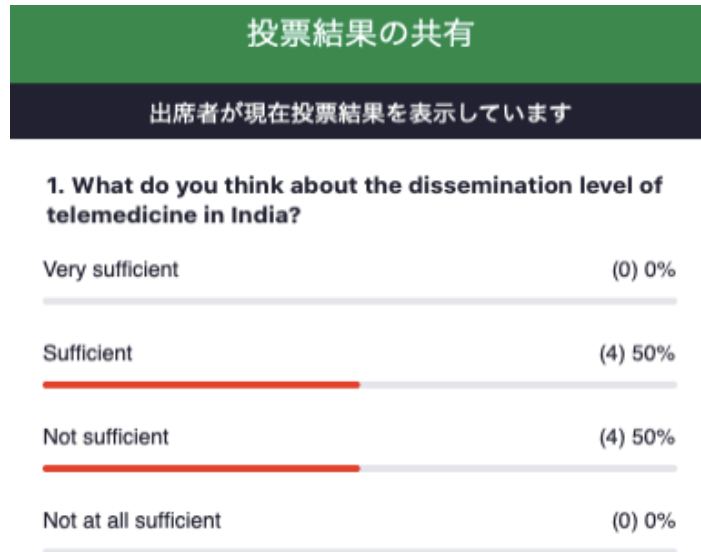


# インド側参加者からの意見収集のため、アンケートに加えてZoomの投票機能を活用しました。

## アンケート結果(3/4)

Telemedicine普及度合いに係る質問回答は、Sufficient 50%、Not sufficient 50%という結果になりました

遠隔医療の普及に向けた重要ファクターについての質問については、Infrastructure、Legal Framework/regulation、Behavior change (User acceptance)に票が集まりました



# インド側参加者から、今後の連携や協力の促進を希望する声も挙げられました。

## アンケート結果(4/4)

Q.「今回のカンファレンスに対する感想や改善点、今後取り扱ってほしいテーマなどあれば、教えてください」への回答

Welldone

(Dr. Meenu Singh, Postgraduate Institute of Medical Education & Research (PGIMER))

Would like to evaluate the products as pilot projects in India and collaborate.

(Dr. Kalayarasan R, Jawaharlal Institute of Post Graduate Medical Education and Research (JIPMER))



Dr. Kalayarasanからは今後のパイロット実施を希望する旨のメールがありました

### 【Dr. Kalayarasanからのメール】

Thank you for the wonderful presentation of new products. We would be willing to collaborate on any pilot project required for these new devices.

National Medical College Network(NMCN)に取り組むSanjay Gandhi Post Graduate Institute of Medical Sciences (SGPGIMS)のDr. Mishraからは、今後、JICAとの協力の可能性も視野に入れた情報交換も可能とのメールがありました

### 【Dr. Mishraからのメール】

Today presentation from Japan are focused on Tele-healthcare so I have asked Repu to include our experience in Covid time. However, we have another stream focused on healthcare delivered by Govt. and corporate. There is a Pan India project on rural health access called Ayushman Bharat- Health & Wellness (AB-HWC) which networks with Primary and sub-primary health centers covering thousands of consultation every day using technical solution developed by Center for Development of Advanced Computing, Mohali (C-DAC, Mohali). You can check that through google.

Further inputs can be given if desired at later date as we mature in our ideas for collaboration under JICA

Keep going

Dr. Mishra



## 6. まとめ・今後の展望

招待機関のうち5~9割の機関から参加がありました。いずれのカンファレンスでも参加者からは高い満足度を得ることが出来ました。

参加機関数、参加者数、満足度アンケート結果





対象国	参加機関／招待数	参加者	アンケート回答者数	平均満足度※ (回答者のみ)	備考
 インドネシア	7機関／11機関	12名	10名	4.50ポイント	Harapan Kita Hospital National Center for Children and Women's Healthから4名が参加
 ベトナム	8機関／10機関	22名	10名	4.40ポイント	Hue Central Hospitalから9名が参加
 フィリピン	10機関／11機関	12名	10名	4.50ポイント	満足度アンケートでは、基地転換開発公社(BCDA)の方からの評価を除けば、フィリピンが最も高い満足度
 インド	6機関／13機関	14名	8名	4.75ポイント	Jawaharlal Institute of Postgraduate Medical Education and Research (JIPMER)から5名、Postgraduate Institute of Medical Education & Research (PGIMER)から4名が参加

※満足度は5段階評価(5がとても満足、1がとても不満足)

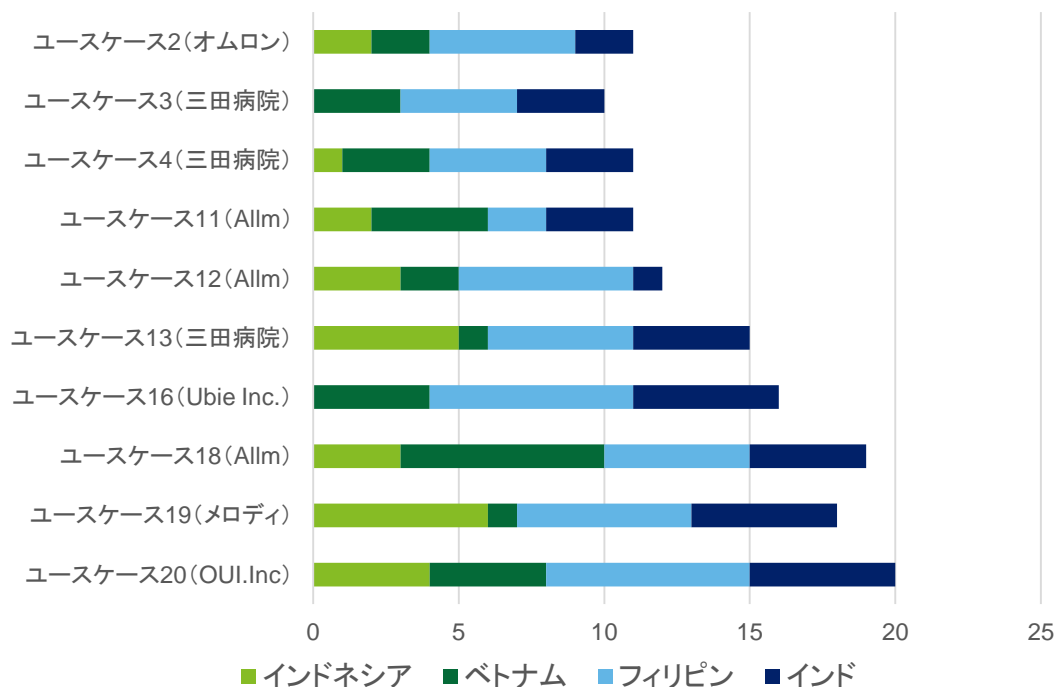
# 各ユースケースに対する関心度合いを見ると、特にカンファレンスで紹介されたユースケースが多くに関心を集めました。

## 関心のあるユースケースに関するアンケート結果

### 各国でのユースケース発表者

対象国	発表者
 インドネシア	✓ 国際医療福祉大学三田病院 ✓ 株式会社アルム ✓ メロディ・インターナショナル株式会社 ✓ OUI Inc.
 ベトナム	✓ 国際医療福祉大学三田病院 ✓ 株式会社アルム ✓ Ubie株式会社 ✓ OUI Inc.
 フィリピン	✓ 国際医療福祉大学三田病院 ✓ Ubie株式会社 ✓ メロディ・インターナショナル株式会社 ✓ OUI Inc. ✓ オムロンヘルスケア株式会社
 インド	✓ 株式会社アルム ✓ Ubie株式会社 ✓ メロディ・インターナショナル株式会社 ✓ OUI Inc.

### 質問「今後、もっと情報を知りたいユースケースがあれば教えてください」への回答結果(4か国分)



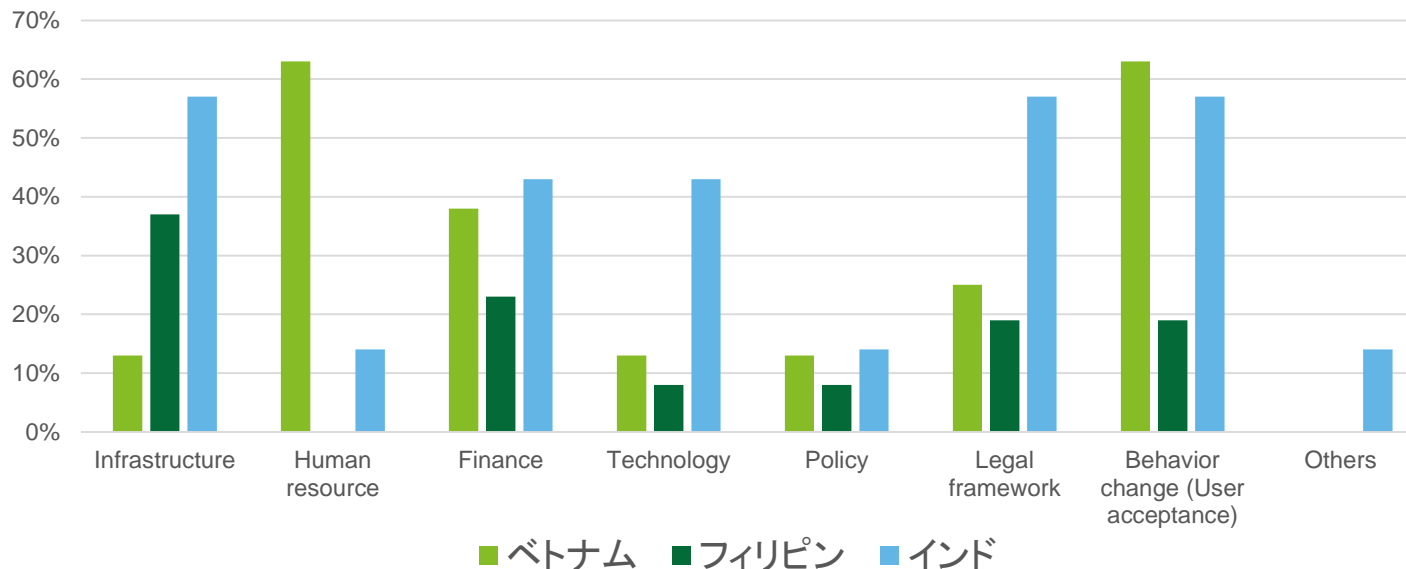
OUI Inc.のみ4か国全てのカンファレンスにて登壇、三田病院、アルム、メロディ・インターナショナルは3か国で登壇。オムロンヘルスケアはフィリピンのみで登壇

プレゼン内容に途上国展開事例を含めて説明したユースケースや、Smart Eye Camera (OUI Inc.)、Melody i(メロディ・インターナショナル)といった分かりやすいICTデバイスに関心が集まったとも考えられる

# ベトナム、フィリピン、インドの各国で、遠隔医療導入の重要な要因(Critical Factor)がそれぞれ異なるというアンケート結果となりました。

遠隔医療導入の重要要素に関するアンケート結果(カンファレンス中にZoom投票機能を利用)

3か国の比較



ベトナムは、Human resourceと Behavior changeの重要性に票が集まりました(=参加者の多くが人に係る要素の重要性を感じていると考えられます)



フィリピンは、Infrastructureの重要性に票が集まった一方、Human resourceには票が入りませんでした(=参加者の多くが人よりもハード面が重要と感じていると考えられます)







インドは、Infrastructure, Legal framework, Behavior changeの他、FinanceやTechnologyにも票が集まりました(=参加者の多くが複数の要素の重要性を感じていると考えられます)

※ インドネシアのカンファレンスでは投票機能によるアンケートを実施していない為、本ページには記載していません。

# 各国参加機関のなかでも、特に高い関心を示した機関との連携可能性が考えられます。

## 各国参加機関のうち特に高い関心を示した機関

対象国	機関	コンタクトパーソン	連携可能性
<b>インドネシア</b> 	Kita National Hospital Center for Children and Women's Health	Dr. Akira Prayudijanto	同病院との連携(具体的な提案はないが継続的意見交換を求めるコメントあり)
	Faculty of Medicine Universitas Indonesia	Dr. Aria Kekalih	同大学との連携(具体的な提案はないが継続的意見交換を求めるコメントあり)
<b>ベトナム</b> 	VinaREN/National Agency for Science and Technology Information(NASATI)	Dr. Cao Duc Minh	同氏からはAllmとコンタクトを取りたいとの連絡あり
<b>フィリピン</b> 	University of the Philippines	Dr. Calvin de los Reyes	RXBox事業との連携
	Southern Philippines Medical Center	Dr. Benedict valdez	Southern Philippines Medical Centerが取り組む地方部の遠隔医療事業との連携
<b>インド</b> 	Sanjay Gandhi Post Graduate Institute of Medical Sciences (SGPGIMS)	Dr. S K. Mishra, Mr. Repu Daman Chand	National Medical College Network(NMCN)との連携
	Jawaharlal Institute of Post Graduate Medical Education and Research (JIPMER)	Dr. Kalayarasan R	JIPMERとの連携(具体的な提案はないが継続的意見交換を求めるコメントあり)

# 今後のフォローアップとしては、各国と日本企業の「関係構築の枠組み形成」と、「個別企業のソリューション展開」の2つの方向性が考えられます。

## 考えられるフォローアップ案

### 1. 関係構築の枠組み形成に向けた取組

No	案	概要
1	JICA広域研修化を目指した遠隔研修の試行	JICAの広域・課題別研修コース化「遠隔医療コース」(2022年度から3年連続)を出口に見据え、そのための遠隔研修トライアルを実施し、日本企業や九州大学TEMDECを講師としてお招きし、相手国医療関係者との長期的な関係性構築の場の創出を目指す
2	JICAとのコネクション形成	JICA関係者(人間開発部(保健担当部署)、STI/DX室、保健案件の専門家等)とユースケース企業との意見交換会を定例化し、JICA案件の中でのユースケース活用可能性を探るとともに、一定頻度で意見交換会へ相手国医療関係者をゲストスピーカーとして招く
3	日本大企業とスタートアップのマッチング	対象4か国の市場に関心があり資金力もあるが自社では動きにくい大企業と、フットワークの軽いスタートアップとのマッチングの場を設ける
4	4か国へのスタディツアー	COVID-19が終息し渡航可能となる場合は、ユースケース企業による相手国医療関係者(今回、カンファレンスへ参加のあった機関)への視察・意見交換のためのスタディツアーを実施する

### 2. 個別企業のソリューション展開に向けた取組

No	案	概要
1	個別PoCを実施するためのオンラインアイデアソン	カンファレンスへの参加機関と日本企業(ユースケースの企業に限るor追加で公募)を対象に、PoC実施計画を考えるためのオンラインアイデアソンを実施する(ソリューション起点)
2	特定期間を対象にテーマを絞りこんだうえでの課題解決PoCアイデア募集	フィリピン大学RXBox事業、インドNational Medical College Network事業、インドネシアJICA遠隔医療技プロなど、各国のなかでも特定事業の課題解決や、カンファレンスにて積極的発言を頂いた機関の課題解決を目的に、具体的課題を確定したうえでPoCアイデアを募集する(ニーズ起点)
3	JICAの個別案件(技術協力、資金協力)の要請書案を作成	上記1、2案の出口として、JICAの個別案件(技術協力、資金協力)の案件形成を目的とし、日本大使館・JICAを巻き込みつつ、相手国保健省や援助窓口省庁(財務省や外務省)への働きかけも含めて、要請書案の作成を行う

デロイト トーマツ グループは、日本におけるデロイト アジア パシフィック リミテッドおよびデロイトネットワークのメンバーであるデロイト トーマツ 合同会社ならびにそのグループ法人(有限責任監査法人トーマツ、デロイト トーマツ コンサルティング 合同会社、デロイト トーマツ ファイナンシャルアドバイザー 合同会社、デロイト トーマツ 税理士法人、DT弁護士法人およびデロイト トーマツ コーポレート ソリューション 合同会社を含む)の総称です。デロイト トーマツ グループは、日本で最大級のビジネスプロフェッショナルグループのひとつであり、各法人がそれぞれの適用法令に従い、監査・保証業務、リスクアドバイザー、コンサルティング、ファイナンシャルアドバイザー、税務、法務等を提供しています。また、国内約30都市以上に1万名を超える専門家を擁し、多国籍企業や主要な日本企業をクライアントとしています。詳細はデロイト トーマツ グループWebサイト( [www.deloitte.com/jp](http://www.deloitte.com/jp) )をご覧ください。

Deloitte(デロイト)とは、デロイト トウシュ トーマツ リミテッド(“DTTL”)、そのグローバルネットワーク組織を構成するメンバーファームおよびそれらの関係法人(総称して“デロイトネットワーク”)のひとつまたは複数指します。DTTL(または“Deloitte Global”)ならびに各メンバーファームおよび関係法人はそれぞれ法的に独立した別個の組織体であり、第三者に関して相互に義務を課しまたは拘束させることはありません。DTTLおよびDTTLの各メンバーファームならびに関係法人は、自らの作為および不作為についてのみ責任を負い、互いに他のファームまたは関係法人の作為および不作為について責任を負うものではありません。DTTLはクライアントへのサービス提供を行いません。詳細は [www.deloitte.com/jp/about](http://www.deloitte.com/jp/about) をご覧ください。

デロイト アジア パシフィック リミテッドはDTTLのメンバーファームであり、保証有限責任会社です。デロイト アジア パシフィック リミテッドのメンバーおよびそれらの関係法人は、それぞれ法的に独立した別個の組織体であり、アジア パシフィックにおける100を超える都市(オークランド、バンコク、北京、ハノイ、香港、ジャカルタ、クアラルンプール、マニラ、メルボルン、大阪、ソウル、上海、シンガポール、シドニー、台北、東京を含む)にてサービスを提供しています。

Deloitte(デロイト)は、監査・保証業務、コンサルティング、ファイナンシャルアドバイザー、リスクアドバイザー、税務およびこれらに関連するプロフェッショナルサービスの分野で世界最大級の規模を有し、150を超える国・地域にわたるメンバーファームや関係法人のグローバルネットワーク(総称して“デロイトネットワーク”)を通じFortune Global 500®の8割の企業に対してサービスを提供しています。“Making an impact that matters”を自らの使命とするデロイトの約312,000名の専門家については、( [www.deloitte.com](http://www.deloitte.com) )をご覧ください。



IS 669126 / ISO 27001